

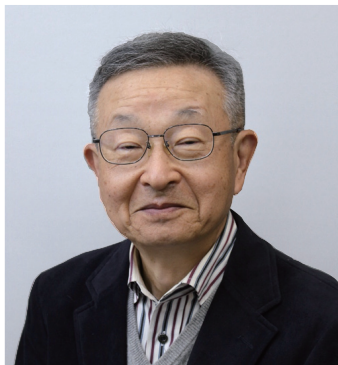


東京若商会 同窓会会報 第22号

発行者 商業会
松若同窓会
立若同窓会
島立若同窓会
高等学東若部
東京支東若部
会長 本名喜久造
TEL:03 (5754) 3040
FAX:03 (3748) 6102

同窓会の輪を
大きく広げよう!

会長 本名喜久造
(昭和45年卒・第22回)



会員の皆さまにおかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素は同窓会活動にご参加・ご協力を賜り有難く心より厚く御礼申し上げます。

令和6年1月に発生した「能登半島地震」で亡くなられた皆さまのご冥福をお祈り申し上げます。あわせて被害に遭われた皆さまにお見舞いを申し上げます。

さて、国外に目を向けます

と長期化する「ロシア・ウクライナ紛争」、「パレスチナ紛争」など混迷を深めております。国内では、相次ぐ「自然災害」(大規模地震災害・風水害)など多発し、その被害は莫大なものとなっております。

なお、昨年は生活に多大な影響を与えていた「新型コロナウイルス」が第5類に移行し、4年振りに街に少しずつ賑わいが戻り、さらに海外からの観光客が目立つようになりました。今後とも力強くかつ継続した景気好循環に繋がることを願っております。

さて、令和5年の東京若商会の会務活動を振り返れば、何と言っても4年振りに上野精養軒にて総会を開催できたことです。感染防止に配慮しつつ約120名の皆さんの参加となり、懐かしい仲間と再会で

き、楽しい時間を共有できました。また、そのほか4月に名所旧跡巡り、ゴルフ会、9月には新宿末廣亭で寄席を楽しむ会が開催できました。次に会報第21号は根本文昭広報委員長のもと全ページカラー化して予定通り32頁版で発行できました。関係各位に改めて感謝いたします。役員会や三役会の会務活動もZoomによるオンライン会議方式も織り交ぜながら予定通り実施できました。

次に、令和6年の重点取組は引続き『組織の拡大と活性化』が最優先であります。丁度60歳代の昭和50年代卒業の同窓生の参加を呼びかけネットワークを拡充して参ります。東京若商会の現有のホームページ等を最大限活用し広報活動を展開していきます。

- 【令和6年活動の重点】
- ①総会開催 上野精養軒 6月8日(土)
 - ②会報第22号発行 6月8日(土)
 - ③同好会活動の一部見直し活性化検討

- ④学年幹事(役員)増員・拡大
- ⑤同郷他校同窓会に学ぶ(交流促進)

以上、若商同窓生の絆を強め『楽しい』東京若商会づくりに注力いたします。東京若商会設立100周年に向けて皆さま方のご支援をお願い申し上げます。

文末になりましたが、物故された恩師ならびに会員の皆さまのご冥福を心からお祈りいたします。

会員(同窓生)の皆さまの、ご多幸ならびに母校若松商業高校のご発展をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

城から母校を望む



◆本号の目次は最終頁をご覧ください◆

東京若商会会報第22号
発行に寄せて

同窓会会長 佐瀬 正行
(昭和50年卒・第27回)



令和6年は能登半島地震に始まりました。この地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、ご遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。被災された皆様にご心からお見舞い申し上げますとともに、1日も早く復興されることを願うばかりです。

今年の会津の冬は、暖冬で暖かい日が続き、スキー場など雪に係わる方々には厳しい冬となりました。その中でも、昨年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「いわゆる2類相当」から「5類感染症」になり、観光関係については、V字回

復が期待されました。折しも原油高など物価高騰により会津の観光は思うようにコロナ前のように回復していませんでした。

ただ、このような状況の中、昨年の教育旅行(修学旅行)とインバウンドの旅行客は、コロナ前の人数を上回る事ができました。今年も宿泊施設は週末は予約でいっぱいだと聞いています。

今、この原稿を書いている時期は同窓会入会式と卒業式が行われる時期です。3月1日に卒業証書授与式が挙行され、第76回卒業生158名が卒業証書を手に入れました。今年の卒業生も昨年度の卒業生同様に新型コロナウイルスの流行により、新たな様式での高校生活を余儀なくされました。しかし、彼らは現実を直視し、自分たちが出来ることを考え、チャレンジしてきました。その結果、確実に立派に成長し、学び舎を夢と希望をもって巣立っていきました。

これからは、われわれ同窓会の会員として誇りをもって、

社会で活躍することを願って止みません。

さて、日本の将来に向けた課題の1つに人口減少があります。母校のある会津若松市も同様の課題を抱えています。最近の人口減少は著しく加速が進んでいます。会津地域は昭和の時代には30万を超える人が住んでおりましたが、この30年で16万に減少しており、会津若松市でも、ここ数年、毎年1千名を超える人口減少がみられます。このままの数字で推移すれば、答えは明確です。行政としても様々な厚い施策でイターン、Uターン、Jターンを受け入れようとしています。

そこで、若商同窓会東京支部の皆様にお願いがあります。昨年もこの原稿で書かせていただきました「関係人口」をステップアップして、「定住人口」を何としても増加させたいと考えております。

是非、ご本人、お子様、ご親戚、知人と、会津に住まいする関心のある方に、声をかけていただき、定住人口の増

加に一役買っていたらと思います。どうぞよろしくお願いたします。

結びに、同窓会東京支部東京若商会のご支援・ご協力を

賜りながら、母校若松商業高校のさらなる飛躍を応援して参りたいと思います。東京若商会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。



桜咲き誇る校舎と磐梯山頂上(母校 石井教諭提供)

「東京若商会会報第22号」
発行に寄せて

前校長 吉成 広昭
(在職期間 令和3年4月〜
6年3月)



東京若商会会員の皆様には、
ますますご清祥のこととお慶
び申し上げます。また、平素
より本校の教育活動に対しま
して物心両面にわたる多大な
ご支援をいただいております
ことに厚く感謝申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルスイ
ルス感染症の感染症法上の位
置づけが5類感染症に引き下
げられ、それまで設けられて
いた様々な制約や制限もすつ
かり無くなり、コロナ以前と
同様の日常が戻って参りまし
た。

生徒諸君はこれまでの窮屈
な状況を脱し、伸び伸びと学

習活動や部活動に精一杯取り
組み、持てる力を如何なく発
揮し充実した高校生活を送っ
ております。これは、本校の
教育方針である『文武両道』
を体現するものであり、若松
商業高校百余年の歴史の中
で先輩諸氏から脈々と受け継
がれてきた精神の賜物であり
ます。

さて、昨年6月10日(土)
に上野精養軒で開催された総
会にお招きいただき、ありが
とうございました。素晴らし
い会場で盛会のうちに滞りな
く執り行われ、会津若松市か
ら駆け付けた私共も大変楽し
く過ごさせていただきました。
この場をお借りして、改めて
御礼申し上げます。

令和5年度の生徒の活躍で
ありますが、部活動では、陸
上男子やり投げ、柔道女子個
人63kg級でそれぞれ北海道イ
ンターハイ出場、簿記研究部
が全国高校簿記競技大会団体
出場(18回連続出場)及び個
人佳良賞受賞と活躍しました。
また、スキー部が冬季インタ
ーハイ男子回転1名、大回転

3名出場、女子は県予選で回
転3連覇及び2年連続大回転
との2冠を達成して2部門の
出場を果たし、冬季国体には
少年男子大回転4名、少年女
子大回転1名出場、続く全日
本ジュニアスキー選手権には
男子スノーパード回転に3名出
場、女子スノーパード回転では
第3位、アルペンスキー北海
道女子スノーパード回転で第2
位となるなど、全国大会で上
位入賞する場面が数多く見ら
れました。

資格取得では、国家資格で
あるITパスポート試験に6
名が合格を果たしました。進
路関係においては、福島大学
2名、会津大学3名と昨年に
続いて多くの国公立大学合格
者を記録し、法政大学1名を
はじめ多くの有名私立大学合
格者を輩出できました。また、
就職内定率は申すまでもなく
100%を達成し、地元はもとよ
り県内外の優良企業から内定
をいただき、公務員試験では、
希望者14名中6名の合格とな
りました。今後も我々教職員
一同は、生徒一人ひとりが自
己の目標に向かって真摯に取
り組む態度を育成すべく、生



「滝沢不動滝(白虎隊敗戦ルート)」 斉藤仁史(平成元年卒) 提供

徒たちにとってより良い教育
活動を展開して参ります。

結びに、東京若商会会員の
皆様には、今後もこれまで同
様のご支援ご協力を賜ります
ようお願い申し上げますと
ともに、貴会のみますますのご健勝
展と、会員の皆様方のご健勝
とご多幸をお祈り申し上げ、
ご挨拶といたします。



鶴ヶ城桜

令和5年度 総会・懇親会報告

4年ぶりの同窓会、 大いに盛り上がる

東京若商会 会長 本名 喜久造
(昭和45年卒・第22回)

東京若商会の2023年総会(94回)は、去る6月10日(土)上野精養軒にて4年ぶりに開催された。曇天の梅雨空ながら約120名の方々にご出席いただいた。今回の初参加者は9名でした。

当日配付資料は総会要項・出席者名簿・東京若商会「会報第21号」・学校PTA会報「明浄」ほか。

総会当日の朝は、役員の方々が会場設営等に8時頃から入館し、準備に汗を流していただいた。受入れ準備は済々と進み、10時頃には会員の皆さんがぼちぼち見え始め、いよいよ4年ぶりの総会が近づいて来たと実感。

まず、第1部は用意した『次第』に従い、『2023年定例総会』は10時30分開始。司会者は池田俊子さん、大町富江さ

んの2人。ご両人の連携宜しく順調に議事が進行した。また、議案は第1号から第6号まであり。会則にそつて会長が議長を務め、全議案満場一致で可決承認された。特に長年の懸案であった『会則』の見直し案も異議なく可決承認された。今後の会務活動の活性化に寄与するものと期待される。総会時間は予定通り11時30分に終了となった。

第2部、お待ちかねの『懇親会』は12時ちょうどに開始。司会進行は渡邊信郎さんと小林伸行さん。まずは、壇上で『鏡開き(会津の酒・同窓生伊藤秀一さんよりご寄贈)』続けて室井軍三顧問の発声で乾杯!! 懇親会テーブルは16卓。各テーブルとも恒例の『卒業年次単位』の心配り。久々に懐かしく顔を合わせ、各テーブルとも食事と会津の銘酒で会話が弾み、会場全体が和やかな空気に包まれた。そして今回も室井顧問手づくりの『二シン漬け』と「きゅうり漬け」をみんなで美味しくいただきました。

また、今回は同窓生民謡歌手『根本美希』さんがアトラクションに出演し、民謡の数

々を披露し会場を盛り上げてくれた。さらに、後半には恒例の『会津磐梯山』の盆踊りを根本美希さんの歌に合わせて会場いっぱい輪になって踊り、懇親会はピークに達した。続いて、大抽選会の上位当選者発表。豪華景品は壇上渡し。当選者は司会者のインタビュに笑顔で応じ、会場から大きな拍手を受けていた。

定刻、14時30分には室井初男副会長の本締め。気合とお酒が入り、少々長めの挨拶になったが、会の発展を願う『気持ち』が強くにじみ出ていた。

写真撮影は今回も、『斎藤仁史』さんをお願いし快く引き受けてくれた。全体写真もみんな笑顔で収まり来年も元気で参加する事を誓い合い会場を後にした。



初めて東京若商会に参加して

大堀 孝男
(昭和53年卒・第30回)

今回参加のきっかけ、それは、令和元年11月の若松四中の同級会でした。

「東京若商会に来ませんか。」そう声を掛けていただいたのが、四中同級の大町さんでした。(大町さんは、東京若商会常任幹事)しかし、その後、程なくコロナ禍。

時は流れ、令和5年6月10日実施の「令和5年東京若商会総会・懇親会」の案内が届き、大町さんの言葉を思い出し、参加に〇を付け返信。そして、当日、上野精養軒へ。

受付を済ませ、会場に入ると、既に沢山の方が会場入りしておりました。指定の席に向かうと隣の席は、大町さんの席。知らない方ばかりなので、ちょっとと安心。

そして、艶やかな着物姿の大町さんと4年ぶりの再会。挨拶後、ほどなく、総会開始。粛々と総会は進み、やがて、懇親会へと続く。来賓祝辞の

後、歓談となり、会場は一気に賑やかに。皆さん、お酒も入り、楽しそうな笑顔。あちこちの席から大きな笑い声も。そんな中、ふと気づいた事がありました。皆さん多少酔っても、振る舞いが、きちんとしていて。勿論、身だしなみも。ただの酔ったおじさん達ではない。

勝手な推測ですが、若松商業高校出身者の多くは、おそらくさまざまな会社や個人事業においてもきちんと仕事をし、立派な人生を送って来たのではないかと思いました。自画自賛ですが、私も在籍した会社で、44年間一生懸命に働きました。そして、なにより大事にしていたのは、「清く正しく」「ならぬものはならぬ」でした。私も若商出身で良かったと思います。

会も進み、校歌の時、最後に歌ったのが昭和53年3月。それ以来でしたが、伴奏を聞いたら、すぐに思い出しました。そして、高校時代の思い出が次から次へと浮かび、若商の学び舎、教室、クラスメイトの面々。お世話になった

先生、愛情あるお叱りを受けた先生方の顔も浮かびました。また、辛い思い出など全くなかったことにも気づきました。長い人生で、たった3年間という短い高校時代。しかし、そこには、その後の人生に大きく影響する何かがあった3年間だと思えます。自分にとって、大切にすべき思い出の一つ。

今回の総会・懇親会に参加し、そんなことを思った次第です。大町さんには、改めてお声掛けいただいたことに感謝いたします。今後も、東京若商会を応援していきたいと思えます。皆様におかれましては、いつまでも元気で過ごして下さい。そして、また、お会いしましょう。



幹事長レポート No.5

幹事長 五十嵐 健
(昭和50年卒・第27回)

1 はじめに(4年ぶりに総会開催)

東京若商会会員及び役員の皆様には、日頃から当会の運営にご理解・ご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

令和5年度は、4年ぶりに第94回総会を約120名、うち、新規9名にご参加いただき、盛大に開催することができました。

幹事長として初めて、総会案内(チラシ等)の作成・発送、総会資料(5年度活動計画、5年度予算等)の作成、会場の設営等について、役員の方のご協力を得て準備を行い、何とか無事に開催でき、ほっとしたのが実感でした。改めまして、ご参加していただいた会員、役員の方及び当日都合により参加できなかったにもかかわらず年会費や寄付をいただきました皆様に感謝申し上げます。

総会の詳細は、本会報4頁に本名会長が報告しておりますが、参加者は同年代のテールで旧交を深めていただきました。また、本校同窓生民謡歌手の根本美希さんの歌や会津磐梯山の踊りなども楽しんでいただきました。私も、初参加の軟式テニス部の先輩と部活動等の話が弾み、楽しいひと時を過ごすことができました。

今後も参加して良かったと思っていただけの総会・懇親会を本名会長以下役員で工夫していきたいと考えております。会員の皆様には、引き続き総会への参加をはじめ、当会の運営にご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2 東京若商会の原点について
(総会参加が原点)

会則第2条第1項に「本会は、会員相互の親睦を図り、併せて母校の発展に寄与することを目的とする。」第2項に「本会は、前項の目的を達成するため、次の活動を行う。」

- (1) 総会および役員会の開催
- (2) 会報の発行
- (3) その他 本会の目的を達

成するために必要な活動」となっています。

私は、会員の皆様の接点は、総会にあると思います。5年度は第94回でしたが、ここまですべて先輩の役員の方々が継続して開催してきたことは、大きな力、大きな塊、大きな宝だと思います。

ご参加していただいた会員の皆様のご理解・ご協力の賜物であり、今後も100回、可能であれば150回に繋げていくことが役員をはじめ、会員の皆様の使命ではないかと思えます。

皆様ご承知のとおり、総会の参加者は、年々高齢化で欠席する方が増え、また、新規に中堅・若手の参加が少なく、減少傾向にあります。

私もそうでしたが、仕事に一区切りが付き、子育ても終わり、時間ができた方が総会に参加されておりますが、若い方をはじめ年齢を問わず、皆様の総会へのご参加を期待しております。

総会参加が原点で、5つのメリットがあります。お気軽にご参加を！

- ① 1人で参加されても、同級生や同年代が同じテーブル

で歓迎！

② 美味しい食事・お酒を堪能！

③ 歌手等ゲストと一緒にイベント(盆踊り等)に参加！

④ 各種同好会(ゴルフ、寄席、旅行、名所旧跡巡り)に参加！

⑤ より親睦を深めるため、個別に新年会等を実施！

総会は、同級生や同じ年代の方との出会いの場であり、ここから同窓会に繋がっていくと思っております。是非とも総会にご参加をお願いいたします。

3 今後の参加勧奨と第100回開催に向けて

第94回総会の参加者(来賓を除く)の平均年齢は75歳。

現在の役員会の平均年齢は76歳で、高齢化が進み、会員や役員会のメンバーが減少してきます。若い方、特に50代、60代の方に参加していただかなければ、同窓会の存続が厳しい状況にあります。

そこで、今後数年間は、会員のうち若い方(昭和50年卒業生以降)に、総会案内と合わせて会報(前年作成のもの)を同封し、本活動のPRを行うこととします。会報は、広報委員会が毎年様々なテーマ

を設定し、1人でも多くの会員が気軽に寄稿できるように創意工夫を凝らしています。会報に目を通していただくとともに、是非ご寄稿もお願いいたします。

今年度は第95回総会であり、5年後の令和11年度は第100回(100周年)を予定しています。

他校の100回の総会は、一流ホテルで豪華に盛大に開催し、例年より参加者が大幅に増えたと耳にしました。イベントにはどなたをお呼びするか、会場はどうするか、記念品は何にするかなど気が早いです。

100周年総会に向けて、1人でも2人でも多くの会員に参加していただくことを心から願っております。

人生の一コマとして東京若商会(総会)と一緒に楽しみましょう！

【連絡先】

幹事長 五十嵐 健

TEL 090-9799-517539

〒200-0000 さいたま市岩槻区

並木2-15-1211007

メール:

igarashi11020803@gmail.com

恩師からの便り

同期会とQRコード

二瓶 哲

(在職期間 昭和57年4月～
63年3月、平成8年4月～
10年3月、昭和35年卒)

昨年の11月に郡商時代の教え子達の還暦祝いの同期会に招待された。この会は3年前に計画されて記念品まで用意したが、あのコロナの猛威により直前になり計画は延期せざるを得なくなり、次の年も実施できずに、還暦から3年も経過してようやく開催された。しかし時の経過と共にいろいろな事情で当初より参加者が減り、日付入りの記念品が沢山余ってしまった。

ぞ気持ちや切らさずに実施できたと感じた。いよいよ開会となり全員で記念写真を撮ることになり会場の中央に集合して写真に納まった。この時の幹事からお知らせがあり、写真は受付名簿の表紙に載っているQRコードから読み取って下さいとのこと。私には出来ないことだなど幹事さんに小声で話した。

44年振りに会う人もいて、名前を聞いても思い出せなかつたりと時を戻すのに大変であった。その中の1人は私が本人や親を説得して第一勧銀を受験しよう勧めて見事合格して、都内周辺の店に勤めることができ幸運だったことや、本店では有名な小椋佳さんと同じ職場で仕事ができるなど、勧めてくれた先生に礼を言いたくて今日は来ましたとのことなど。幹事長は私のクラスで高校時代は野球部の部長をしていて、今は自営業の社長さんである。

あれから2週間ほど過ぎて一通の郵便物が届いた。中には先の同期会の写真が拡大さ

れて額に入っていた。私がQRコードを読めないと言ったことでとんだお手数をかけてしまったので、差出人の女子クラスの方に礼状を出した。折り返して電話がきて、こんどは古希祝いをやろうとの話があるので先生も元気で居てくださいとのこと、この先どうなる事やら。これまでキャッシュレス時代にはついていけないと自問して、どちらかといえば時の流れから遠ざかる気分で居たが、未だ生きたいの覚悟があれば時代の変化について行く必要に迫られていることを実感させられた同期会であった。

また、あの時の高校生が40年の歳月を経てそれぞれの場面で企業戦士として鍛えられバブル以後の日本経済を支えてきた自負も感じ取れた。頼もしくも逞しく成長した姿を目の当たりにして、当時の担任としても誇らしく感じて満たされた気分が郡山を後にした。

「人づくりの商業教育」

中野 正人

(在職期間 平成8年4月～
17年3月、昭和61年卒)

若松商業高校に教諭として勤務したのは、平成8年4月から平成17年3月までの9年間でした。その頃は、簿記などの資格取得指導に力を入れたとともに、部活動指導にも本気で取り組んでおりました。

当時いらした商業科の先生方はもちろんのこと、普通科目担当の先生方も生徒が希望する進路実現に向けて、一生懸命に取り組み、多くの実績を残してきました。現在も4年制大学の指定校推薦枠が数多くあるのは、当時の生徒の頑張り、先生方の熱心な学習指導や進路指導があったからだと思います。

平成14年度は、会津、会津女子、会津学鳳(旧若松女子)の市内3校が男女共学となる大きな変化があった年でした。その結果、市内の各校に入學してくる生徒が大きく変わってきたことが印象に残っています。これに合わせて、若商では、それまでの商業科4学級、情

報処理科2学級から会計ビジネス科3学級に学科改編をしました。このことは若商にとって大きな変化でしたが、その後も部活動では変わらず高い成績を残すなど、当時の生徒たちは元気に頑張ってくれたと思っています。

時は流れ、平成から令和になり、全国的な課題である「少子高齢化」が急速に進む中、その影響は県内でも会津地域が一番大きく現れ、域内県立高校の統合が進みました。このような状況下において、これからの若商では、商業の高い専門性を身につけさせるとともに、地域課題に対する探究型学習に取り組み、商業高校生の視点で課題解決策を地域に提案できるような人材の育成を推進するべきだと思います。「ものづくりの工業教育」に対して「人づくりの商業教育」を進め、地域を支える人材の育成に取り組みることが、今後さらに重要になると考えております。



若商在職時代の思い出

熊田 淳

(在職期間 平成14年4月～18年3月)

この度は、懐かしい初任校の思い出を書く機会をいただきましてありがとうございます。

私は2002年に福島県高等学校教諭として採用され、若松商業高校に赴任いたしました。校務分掌は進路指導部となり、渡部昇司進路指導部長のもとで業務にあたりました。常勤講師をしていた須賀川高校でも進路指導部にいたのですが、若商の卒業生の進路の質の高さに驚いた記憶があります。

また部活動はバスケットボール部の顧問となり、教科の指導教官でもあった折笠弘一先生のもとで、男子バスケットボール部の指導を行うことになりました。このバスケットボール部の顧問が、私の若商時代に1番力を入れたことかもしれません。私は全くの素人でしたので、外部コーチをお願いし、その鈴木コーチの熱心な指導法を学びました。その頃の男子バスケットボ-

ール部は県大会に行けるか行けないかぎりぎりのチームでした。顧問として最初のインターハイは代表決定戦を1点差で敗退し、県大会出場を逃しました。次の代は肉体的にも精神的にも厳しい練習に頑張ったのですがなかなか勝てず、ようやくその次の代の新人戦で県大会出場を果たすことができました。これ以降は県大会の常連校となり、私が転動したのち、阿部先生の時代には全国インターハイに出場を果たすまでになりました。

2年目からはクラスを持たせていただき、舟田学年主任のもと、情報ビジネス科4組の担任として楽しい3年間を過ごさせていただきました。あまり手のかかる生徒はいなかったような気がしますが(笑)、共に笑い、時に指導を頑張り、生徒たちの希望が実現するようになつてきました。クラスみんなが資格取得や進路実現に努力を重ねてくれ、また、球技大会などの行事も盛り上がり、担任として誇らしいクラスが作れたと思っています。今でも連絡をしてくれる生徒もあり、卒業後もクラス会などに

たびたび呼んでいただいております。4年間という短い在职期間でしたが、若商時代の経験が、教員を続けていける自信ややりがいを与えてくれました。そして若商は第二の母校として、皆様同様、若商生の活躍するニュースに胸を躍らせています。

3回目の若松商業高校と幸せ

佐藤 充

(在職期間 平成20年～28年・令和5年～、平成元年卒)

昭和45年に下郷町で生まれた佐藤充は、3回目の若松商業高校を楽しくしています。

1回目は昭和61年に入学試験を突破して学生として3年間若商で過ごしました。3年生になる時に就職するか、進学するかで迷いましたが、家族の進めもあり東京の大学へ進学することに決めました。大学では、父の進めで教職の免許を取ることにになり、大学3年の時に若商で2週間の教育実習を行いました。実習で

は、緊張のあまり黒板を赤のチョークだけで板書して、大失敗をしたことが思い出されます。大学4年の時には、教職の道に進むことを決め、福島県の採用試験(商業)を受けました。なぜか、埼玉県の川本高校で講師をすることになりました。次の年、再チャレンジで福島県の教員となることができました。その年の同期採用には、若商で隣のクラスにいた羽染君と1つ下の成田君も一緒に採用されました。

初任校は浜通りの浪江高校、2校目は中通りの郡山商業高校、3校目は2回目となる若松商業高校へと戻ってくることができました。若商で2回目の担任を持つ時には同級生の羽染君と一緒に学年を持つことができました。この3年間は、最高の3年間で、楽しく過ごさせてもらいました。

次の年、私は田島高校へ転勤し、7年間勤務しました。そして、昨年4月に3回目となる若松商業高校へ勤務となりました。若商では、教頭となつた羽染先生、教務兼総務の成田先生が待ち構えており、総務主任として仲間入りし1

年間の時を経て今に至っております。転勤がある職場で、この3人が一緒に働ける偶然に感謝し、楽しんで働きたいと思えます。タイトルにある幸せは、若商に入学できた幸せ、教員採用試験と一緒に合格できた幸せ、同級生と一緒に担任を持つことができた幸せ、そして、3人が一緒に母校で働いている幸せ、最後に息子と一緒に学べている幸せです。この幸せを感じながら毎日、若商に通い、良い生徒を育てていきたいと思えます。

先輩方には、母校を応援する幸せを感じていただきありがとうございます。末永くお付き合いいただきますよう、お願い申し上げます。



佐藤 充 羽染 恒 成田 憲一

若商時代の思い出

高校時代の夏休みの1日

猪俣 信儀

(昭和33年卒・第10回)

私は昭和30年4月に入学した。学区外で会津坂下町から15人受験して、全員合格した。通学は靴を履いての通学と決められていた。当時、中学時代は高下駄(朴木ほうのきで10cm位)を履いて通学していた。男子は殆どこの下駄を履いていたと思う。

高校2年生の夏休みの1日。「明日、何をやる。どこに行く!!」と話していて、「若松に行くか?」となった。交通費は定期券があるので大丈夫だった。結果的に行き先は学校だった。鉄棒をしたり、校庭の草むらに寝転んだりして、時間をツブした。腹が減ったので、当時大盛で安価だった三角屋というラーメン屋でラーメンを食べて、帰宅した。帰宅途中、昭和28年頃からテレビ放送が始まったと記憶

若商時代の思い出

山内 佐内

(昭和37年卒・第14回)

1 影響を受けた恩師

1人目は伊東一平先生です。3年生の担任で、時間があるときと京都広隆寺の弥勒菩薩(国宝)の話が聞かれました。菩薩様の前に立つと心穏やかな気持ちになり、全てを忘れてしまふそうです。うれしいのある微笑みだと話されていました。

その影響から会津にも立派なお寺、仏像があるのが分かり、会津大仏立木観音、中田観音他沢山の寺社仏閣巡りをするようになりました。(参考:前回会報第21号11頁に鈴木稔様の詳細寄稿があります。ご覧下さい)

期末試験が終わると、市内の映画館に行き、当時流行のシネマスコープ(大画面)で「ジェームズ・ディーンの『エデンの東』」等を観に行った。最高の憩いのひと時だった。

この時代には、アベックやセールスマン等の言葉が使われ出した頃だった。取りとめのない文章になってしまいましたが、当時を知る方々は懐かしく感じていただけではないかと思えます。

からは2人受験したのですが、2人とも合格しました。初めての会社だったので、心配でしたが、合格できてホッとしてました。

勤務して3年後に、大会社と合併しましたが、何とか定年まで勤めることが出来ました。先生のお陰と、感謝しております。

2 親友三勇士

日常はあまり勉強をしていなかったが、学期末試験になると、同年の鈴木さん宅にお邪魔して、3人で徹夜で勉強をしました。鈴木さんのお母さんの美味しい朝食を頂き、学校に出かけました。

ヤマを張った場所が出題された時は高得点が取れましたが、ハズレた時ははじめでした。しかし、会津線の線路を歩き、バカ話をしながら頭をスッキリさせました。(今でも本当に忘れることが出来ません)

3 部活動の挫折

張り切ってバドミントン部に入部しましたが、お城の中にあつた稲荷神社の階段、北


福島旬のモノを販売! 魅力を発信!

日本橋 しま館
M I D E T T E



〒103-0022 東京都中央区日本橋室町4-3-16 柳屋大洋ビル1階
営業時間 / 10:30~19:00
TEL 03-6262-3977

会津の酒 末廣
会津杜氏 津佐幸明(昭和54年卒)の醸し出す、会津の地酒



TROPHY International SAKE Challenge 2023 最優秀大吟醸・吟醸受賞 **大吟醸 玄宰**

オンラインショップも是非ご利用ください! **末廣酒造**

末廣酒造株式会社
博士 蔵 福島県大沼郡会津美里町字美宮里81 ☎0242(54)7788
嘉永 蔵 福島県会津若松市日新町12-38 ☎0242(27)0002

の丸公園の坂道での兎飛びが
厳しく、膝を痛め数か月で退
部しました。親友の鈴木稔さ
んは活躍し、福島県大会でダ
ブルスで優勝しました。

4 高校野球大会の応援

部活を退部していたので、
唯一楽しい思い出に残ってい
るのは会津球場での応援合戦
でした。勝っても負けても、
凱旋歌（青垣山をめぐらせる
…）、応援歌（熱血みなぎり肉
おどる…）、校歌（緑変わらぬ
若松の…）を歌い、最後に相
手を讃えあう素晴らしい場面
でした。

5 最後に素晴らしい親友に

巡り会えたこと

宮城県（仙台市）、埼玉県
（浦和）、東京都（八王子）と
皆遠くに離れているが、傘寿
になっても元気で、スマホの
ラインで毎日遣り取りしてい
ます。切磋琢磨、ボケ防止の
ために、悩み相談、楽しみ、
励ましあっています。本当に
かけ替えのない素晴らしい友
人です。



60年前の尾瀬紀行

（森と水の秘境）

坂井 徹夫

（昭和40年卒・第17回）

当時の尾瀬は秘境。尾瀬は
標高の高い山々で四方に囲ま
れた盆地状の湿原。周辺の道
路は限られ一般の人は気軽に
行けない。NHKラジオ歌謡
で「夏の思い出」が流れ一躍
注目。若商1年の時I君の呼
びかけで仲間が集まり尾瀬紀
行を計画。8月上旬に実行。

【1日目】 会津田島始発のボ
ンネット型路線バスで終点松
枝岐へ。道路は未舗装でバス
中はむし暑く松枝岐到着。人
影なく茅葺屋根の民家が散見
中には屋根から草花が咲いて
いる。

終点から尾瀬入口の七入ま
で約50分、途中小川の水辺で
水筒へ補給。水辺周辺に小動
物の毛皮が散乱していた。

松枝岐の食はそばと山人料
理、山菜、岩魚、山椒魚の干
物など狩猟系の食文化。まさ
に平家の落人伝説が残る。1
日目は抱返りの滝で野営。夜
中ヤマネなのかテントの中
に入り込んでくる。

【2日目】 笹やぶの沼山峠を
越え大江湿原へ。目の前は尾
瀬沼。当日は長蔵小屋拠点に
三条の滝、平滑の滝など散策。
8月上旬なのに湿原はワタス
ゲの綿帽子が一面。足早に茶
褐色で秋の気配。人の気配も
山小屋に食料を運ぶ歩荷人ぐ
らい。

【3日目】 三平峠を越え大
清水小屋から四郎岳林道に入り
丸沼・菅沼に向かう。ところ
が林道の目印が途中からない
人が歩く道ではなく林道入口
まで引き返す。

すでに夕刻7時。道路わき
斜面に急遽野営。これが間違
い。この周辺は野営禁止区域。
夜間道路。パトロールに見つか
り即刻退去命令。やむなく暗
闇の道路を歩いていると偶然
に親切な地元の方と出会い近
くの廃墟となった根羽沢鉱山

跡地まで案内して頂き貴重な
体験をした。

【4日目】 四郎岳山越えの林
道はあきらめ大清水小屋に戻
り、バスで菅沼・丸沼まで行
きキャンプ場で野営。

【5日目】 キャンプ場からバ
スで中禅寺湖に向かう。中禅
寺湖は国立公園内で外国の保
養施設などがあり野営禁止区
域。そこで近くの小学校の校
庭を交渉し借りる。食料は湖
畔の店で調達。火は使わずゴ
ミはすべて持ち帰った。

【6日目】 会津田島行きのバ
ス時間に合わせ、本日は五十
里湖周辺に野営。夜中ダム湖
のサイレンが聞こえた。放流
合図らしい。満天の星空であ
ったが寝苦しい夜であった。

【7日目】 最終日、会津田島
行きの路線バスに乗車。途中
街道の景色は全く記憶にない。
多分皆ぐっすり寝込んでいた。
現在はシーズン中尾瀬夜行
電車が運行。栃木、群馬方面
から日帰りで気軽に行ける。

ただ環境保護のため現在の方
がより厳しい規制。はるかな
尾瀬という旅情のイメージは
ない。

60年前の尾瀬紀行は自然を
守るルール、社会的ルールを
守る事の大切さを知る貴重な
体験であった。I君とは若商
卒業後2人で飯豊連峰を縦走。
その数年後、I君は突然同窓
会名簿に物故者名で記載され
ていた。今では8月になると
遙かな尾瀬の遠い空と、I君
の元氣な登山姿が何故か「幾
拾星霜」経ても懐かしく思い
出す。

設計・施工 店舗・住宅家具一式

ユンケル工業株式会社



代表 佐藤順昭

本社 〒121-0815 東京都足立区島根 2-32-21-502
TEL/FAX : 03-3850-1354

工場 〒382-0123 栃木県栃木市川原田町 1041-2
TEL : 0282-24-4831 FAX : 0282-24-4830

会津営業所 〒969-5204 南会津郡下郷町弥五島字中の内 365
TEL : 0241-67-2362

60年前の

尾瀬三平峠一コマ

【一之瀬休憩所】



【根羽沢鉱山跡地】



遠藤義行先生について

木村 正廣

(昭和44年卒・第21回)

遠藤先生は体育の先生でした。跳び箱のテストのときに、踏み台の位置を自分が跳びやすい位置に設定してテストを受けるように、と指導されました。そのように設定して、クリアした同級生が大勢いました。自分の意思をしっかりと持って、物事に臨む姿勢をその時に教わりました。

卒業してからも、会議などの場では、他人の意見を尊重しつつ、自分の意見をしっかりと発表する態度が身につきました。あの時の先生のご指導があったからこそ、自分の意思や意見をはっきりと表明することの大切さを教えていただきました。なあ、なあ、じゃなくて、どうしたいか、どうすれば良い結果が得られるのか、自分の意見や意思をしっかりと持って、事にあたることの大切さを学びました。遠藤先生、ありがとうございます。

「断捨離と修学旅行の思い出写真」

山田 積次

(昭和44年卒・第21回)

「断捨離」を始めなければと思い立ち、子供たちの写真を整理していたら、私の修学旅行(高校2年時)昭和42年10月29日〜11月2日と記載されているがあまり記憶にない)の際の秘蔵写真が出てきた。

写真帳に貼られている写真から関西方面(伊勢志摩・奈良・京都・大阪・兵庫)のものと思われる。55年の月日がたっており非常に珍しいものである。

バスガイドさんとのツーショットの写真である秘蔵の1枚は当時で言えば、生意気な感じ丸出しの男のものだ。帽子の被り方などは現代風に言えば、ちよつとツツパリ姿の写真であり、恥ずかしい限りではない。バスガイドさんのさわやかさと比べれば、若商の学ランを着たダサイ男の感じがする。

また、同時に名簿に住所が載っていない行方の分からない

い同級生の写真も2〜3枚見つかった。懐かしくて、涙が出そうになった。そのうち、姫路城をバックに撮ったものを1枚併せて提供する。

当時は同級生との楽しかった旅行と思われるが、毎日緊張していたのか記憶が全く定かでない。非常に残念である。天国に召されたときには、棺桶と一緒に入れてもらおうかと考えているが、願いが叶うであろうか。こんなことを考えていると捨てることの作業がなかなか進まない。

ただ、同窓会(東京若商会)には、体が動くうちは参加するつもりである。今年も同窓生に会えることを今から楽しみにしている。



本人 石川俊和君

渡部久一君 鈴木勤君



お客様に役立つサポートを提供します。

玉川助市税理士事務所

所長 玉川助市 (昭和45年卒)
税理士 玉川祐太 (平成16年卒)

〒965-0028 福島県会津若松市亀賀二丁目5番地の10
TEL (0242) 24-7938
FAX (0242) 23-1625

ふもとと「新発見」 &ふもとと自慢

鶴ヶ城公園のサクラ

鈴木 公毅
(昭和29年卒・第6回)

2023年(令和5年)4月上旬、サクラ前線が北上し会津盆地に到着した時、私は「日本さくら名所100選」に数えられている鶴ヶ城公園を散策していた。1965年(昭和40年)に天守閣が再建され、何度か訪れてはいるが、この季節は初めてだ。

西出丸駐車場より梅坂を登り、表御門から本丸に入る途中、帯曲輪では背丈に触れるほどのサクラ。見上げると陽光にそびえる天守閣は三層位までサクラが彩り美しい雄姿だ。

本丸をブラブラして天守閣に上がる。階段は高齢の身にはキツイと思ったが、内部に展示された資料を読みながら進み和らげられた。
廻縁から二の丸、三の丸の

方まで見渡す。城堡の上はサクラが広がり素晴らしい眺めだ。市街も一望できる。所々に高い建物も見受けるが、目立つほどではなく変わらぬ故郷の景観に満足した。

天守閣を降り、鶴ヶ城稲荷前で休憩。その後、椿坂を下り大手門に向う。椿坂から見る景色にも魅了した。深いお堀と石垣、それを飾るかのように馬踏から枝を伸ばしたサクラ。築城(東黒川館)から約630年歴代藩主の偉大なる力と現代の平和を感応させられた。

北出丸では70年前の記憶が甦り、この通りは若商時代の通学路だった。歴史の悲劇など思い浮かべる事なく無頓着に通っていた。
首都圏では多くの場所で花見をして来たが、国指定の史跡では初めてなので非常に感動した。

今回の故郷帰りは4年間コロナ禍で遠ざかっていた両親のお墓参りが目的で、1日目に済ませた。2日目は「日中線しだれ桜並木」の散策を計画していたが、尚早との事に

て変更。「渡りに舟」を得た。最後に、遠藤現夢様の功績には感謝致します。

追記

遠藤現夢 若松市新横町1864(元治元年)〜1935年(昭和10年)公園開祖者
鶴ヶ城には桜の木は無かった。1908年(明治41年)若松市に陸軍歩兵連隊が設置され、その記念に同志と共に、明治から昭和にかけて1000本にも及ぶ「ソメイヨシノ」を植えた。



大内宿の名物・名所

中野 善次
(昭和30年卒・第7回)

1 ねぎそば

「箸」を使わず「ねぎ」を箸代わりに薬味として、そばと一緒に食べる人気メニューです。そばは香りがあり、歯ごたえが格別です。大内宿には数軒のそば屋がありますので是非お立ち寄りください。



大内宿観光協会

2 二十四人戦死の墓

慶応4年(1868年)戊辰戦争で大内沼周辺でも多くの戦死者を出しました。西軍宇都宮藩士大沢富三郎以下24名の墓がひっそりと佇んでいます。



幕末維新

3 大内峠一里塚

鶴ヶ城下の大町札ノ辻を起点に五里(約20km)の位置にあり、街道の両側に塚が対になって保存されています。



文化遺産 オンライン

4 大内峠の「峠の茶屋」

江戸時代に大内峠の頂上に定住した茶屋がそのまま復元されています。



下郷町観光協会



下郷町観光協会

5 小野観音堂

国道121号線から大内宿に向かう道に入って、すぐに右側に続く坂道を上った小野岳の中腹に小野観音堂があります。集落の鎮守様です。10年に1度の御開帳が行われ、古くから縁結びの神様として知られています。

観音堂は1813年(文化10年)に創建された当時の建物で、特に江戸時代中期の元禄16年(1703年)に奉納されてお堂の右側に掲げられている絵馬(元禄浮世絵)は、参道の杉とともに見事です。



下郷町観光協会

雪解けとともに元気な福寿草が春の訪れを告げてくれます。是非、足を運んでください。



なお、2と4の行き方は広報委員で調べてみました。参考にされ、足を運んでみてはいかがでしょう。

2 二十四人戦死の墓

大内宿から県道131号、下郷会津本郷線を本郷方面に向かって、3.2km(車で約5分)地

点に「二十四人戦死の墓」標識有。標識から徒歩約10分。



3 大内峠一里塚

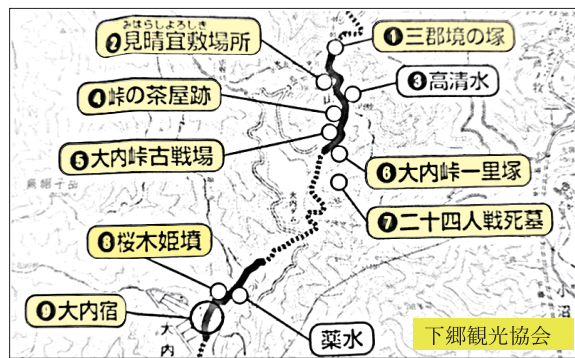
県道131号線の「二十四人戦死の墓」標識に戻って、さらに本郷方面に向かって、2.1km(車で約1分)。標識はなし。写真のような入口。131号から徒歩約20分。



一里塚入口

4 大内峠の「峠の茶屋」

一里塚からさらに徒歩で進んで約20分で到着。



節分豆まきの掛け声

松川源郎
(昭和34年卒・第11回)

2月5日朝、読売新聞の気流(投書)欄を見てビックリしました。節分の掛け声に鬼の目玉が書いてあったのです。私の生家の会津若松市神指町高久では「福は内、福は内、鬼は外、鬼は外、鬼の目玉ぶつぶせ！」と大声で叫んで豆をまいていました。

これまで節分の豆まきの風景を、テレビのニュースで大分見てきましたが、掛け声は「福は内、鬼は外」だけ。どこにも「鬼の目玉」は出てきませんでした。

これは会津だけかと思っていたところ、千葉県船橋市でも「鬼は外、福は内、鬼の目玉ぶつぶせ！」と叫んでいたとの投書。これを読んで嬉しくなりました。皆さんのうちではどんな掛け声でしたか？



みんなの広場

境木地藏尊鎮座の地

酒井 繁
(昭和31年卒・第8回)

歌川広重の浮世絵「東海道五十三次」にあるように、かつて、江戸から京都まで53か所の宿場があった。街道中、上り坂の続く難所の1つに権太坂がある。正月2日、3日に開催の大学箱根駅伝のコースに入っていて、高低差の報道でも知られている。現在の国道一号線に概ね沿い、北側に旧東海道がある。旧東海道権太坂の「境之木」は、保土ヶ谷宿と戸塚宿の中間地点で、武蔵国と相模国の国境でもあった。ここから戸塚に下りる焼餅坂は、日本橋を出発して最初の難所で、旅人が一服する茶屋が並び、焼餅を売っていたことに由来する。武蔵国と相模国との国境の境之木(以下「境木」)は高台にあって、その眺望は素晴らしかったようだ。江戸の日本橋から

九里(約36km)の距離にあって、道の両側の塚がほぼ当時の形で残っており、近くには白旗神社がある。焼餅坂は現在も地域住民の生活道路になっており、手入れの行き届いた大榎木が自生している。境木には境木地藏尊が祭られているが、その逸話の趣は次のようである。

鎌倉腰越浜にうち上げられた大きな地藏さんが漁師の夢に現れ、「江戸に連れて行ってくれ、もし途中で動かなくなったらそこに置いてくれればいい」と告げた。皆が牛車に乗せて運ぶことにした。ところが境木にさしかかった牛車

は突然動かなくなり、漁師たちはそこに置き去りにして帰ってしまった。境木の村人は地藏さんを見て悩んでいると、また夢に現れ、「どんな粗末なお堂でもよいから造ってくれ。そうすれば土地を賑わしてあげよう」と告げられた。村人たちはそのとおりにすると、お参りに来る人が出て「ぼたもち」が名物のお茶屋もでき、大変賑やかになった。

このお堂は良翁寺という小さなお寺の境内にあった。集まったお金を飲み食いに使ったお金を集めると前よりもたくさん集まって立派な鐘楼ができ、お金の集まるお地藏さんと人々から拝まれるようになった。

良翁寺は大正12年の関東大震災で廃寺となったが、金運の縁起にあずかろうと江戸吉原の人たちから寄進された手洗い鉢が今でも境内に残っている。その年号などがかすかに読み取れるそう。

お地藏の境内側の竹林の道を下って行くと代官屋敷の立派な門が眺められ、当時の山

深さと商売繁盛金運のご利益のお地藏信仰が偲ばれる。現在は「境木ふれあい樹林」として地域に開放されている。地藏堂の鐘は明治になって野毛山「時の鐘」に使われ、横浜市民に大正の大地震まで親しまれたそう。

奥会津の曲家に泊

杉原 光男
(昭和33年卒・第10回)

JR只見駅前広場は催事会場。町は全面開通祝賀ムードで盛り上がっている。記念にTシャツをゲットする。

R289を走り、左折して湯川と並走する山道を行く。左に古民家が見えた。砂利道をはりきって駐車する。

正面玄関は何か物足りない構え。入る土間、あがり框。左側に洗面所にトイレ。右側は洗面所のみ。正面は板張り。左に大黒柱。大広間に畳張り。右側の階段を上ると、2階は板張り廊下伝いに宿室が。10畳間が今夜のお泊所。

温泉は外湯。宿履で砂利道歩き。表通り、数段のぼった

先が玄関構えの平屋建てに2槽の内湯。玄関右外の「マキ」の太木。奥会津育成は不思議。「ナギ」は相模原際限を思い出した。先客有り。たっぷり「イイユダナア」

大広間が食事所。郷土料理、裁ちそば付きのもてなし。酒は骨酒が合う。「ウメイ」

主人(地古老)語る。ご先祖様がその昔に熊野詣をしたと。翌年か、翌々年後に熊野山伏の来駕の聞き伝えがあります。外の「マキ」はその頃の物なのかと思っています。神棚は熊野の物、ご先祖の物、昔の物は古惚けて置いてあります。曲家(ウマヤ)を取りこわして玄関に。2階を増築して民宿を始めました。

翌朝、早起きして外湯めぐり1人旅。1つめは近くの川底近くにある小屋建ての岩風呂(混浴)。湯づくり最中で湯溜まりは1時間待ち。10センチ溜った岩風呂に足を入れてみた。「アチチ」。源泉が湧き出していた。

2つめを探す。見当たらずに残念。3つめ目指して歩く。宿履合わず、歩きづらい。橋を渡り、右に曲がり、上る。





川は浅瀬で大岩上の清流が絵になる。
 旅館は日当たりよく、2階はフトンあげの真つ最中。おみさんはそうじ中。
 隣の平屋建ての先に温泉神社が祀られていた。平屋建てが3つめの外湯。浴槽は男女別に。源泉溜まり、清水に入る。あふれ、流れている。入浴は貸切り。朝湯って、いい湯だナァ。
 朝食も郷土料理。コーヒー付。完食。
 奥会津はふるさと、つつがなしやともがき。
 次回は春ヨシ！ 花見湯に酒の旅か、はたまた秋ヨシ！ “山はあかくなる”紅葉湯に酒の旅。子・娘の車で秘境の湯を楽しんできました。

鬼平犯科帳の舞台を歩く
 ～池波正太郎生誕
 100年記念～

青山典
 (昭和34年卒・第11回)

私の読書は年とともに変わリ(当たり前ですが)40代頃迄は海外ミステリー、特に冷戦終結前のスパイ小説等に熱中しました。その後、徐々に時代小説にはまり、特に「司馬遼太郎、藤沢周平、池波正太郎」何れも直木賞の作品を今でも折に触れ読み返しております。藤沢周平は鶴岡の記念館にも行き、日本海に沈む夕日を眺め、雰囲気味わい感動しました。昨年10月某企画会社より「池波正太郎、生誕100年・鬼平の舞台を歩く」の企画があり、友人2名とともに参加致しました。恋・友・放蕩の鬼平の青春を本所(墨田区)を中心に散策致しました。

◎鬼平は実在の人物で火付盗賊改方頭(江戸の特別警察)長谷川平蔵をモデルにした捕物帳です。単純な捕物帳でなく奥深い人間ドラマで雑誌に

掲載されるとTV・映画・舞台・漫画等になり、発行部数3000万部を突破しました。2024年1月より8年ぶりにシリーズ5代目になる松本幸四郎の鬼平が放映されています。

なぜこのように人気があるのでしょうか。全てを「法」という杓子定規ばかりでなく、「情」でも図る懐の深い人間性に、部下も盗賊も心服します。現代でも上司にしたい1番の人として選ばれた事もあります。

鬼平の母は産んで間もなく死亡し、母の実家で祖父母に育てられました。17才で旗本40石の長谷川家に入る。義母からは「妾腹」の子とイジメられ、「本所の鐵」として放蕩無頼の青春を過ごしました。

この経験が「悪を知らぬものが悪を取り締まれるか」との職業観を持ちます。

その後父が病死し、28才で長谷川家を継ぎ、41才で「火付盗賊改方頭」として9年間勤め、50才で病死します。以上が実在の長谷川平蔵のプロフィールです。

◎当日、錦糸町駅(盗人酒屋) おまさの父の店(撞木橋) 蛇の目(鬼平の旧邸) 父が町奉行所へ、27才迄(旗本堂之助屋敷) (法音寺) 本所桜屋敷の中で左馬之助と平蔵が旧交温める(高杉銀平道場) 平蔵と左馬之介が修行(出村の桜屋敷) 銀平の孫娘に恋心を抱く2人、娘が船で嫁入、見送る名場面(相模の彦十の家) 若き平蔵の取り巻きの1人、今は密偵(西尾吉岐守屋敷) 下屋敷は夜賭博場になり悪党共の溜まり場(春慶寺)かたき、に登場(待乳山聖天) 隣公園池波生誕地碑(今戸橋) 船宿鶴屋・平蔵の幼馴染(龍宝寺) お雪の乳房登場池波正太郎の小学校等に行き(池波正太郎記念館)で解散。

◎鬼平全巻の登場人物は、6000名程です。左記主要人物

- 【鬼平の家族】 鬼平、久栄(妻)、辰蔵(長男)、お園(異母妹)
- 【与力】 佐嶋忠介
- 【同心】 酒井祐助、沢田小平次、木村忠吾
- 【密偵】 相模の彦十、おまさ、小房の糸八、大滝の五郎蔵

*人間とは妙な生き物よ。悪い事をしながら善い事をし、善い事をしながら悪事をはたらく。



(参考)

鬼平犯科帳、鬼平犯科帳の世界、文藝春秋社、池波正太郎記念館、朝日新聞、墨田区役所、新人物往来社、フジTV、ウイキペディア



ビバ！ 映画音楽 12

上杉 敏男

(昭和34年卒・第11回)

冒頭、スクリーン一杯にアップした女性の顔。そして、「もう耐えられない、愛してるわ、だからやるのよ」と話す（なぜ、彼女のそんな台詞

が分かるかと言えば、今回、この原稿を作るために、ツタヤから借りて見なおしたから（じゃ）と、カメラがグーツと望遠になって彼女が電話しているところと分らせる。ここは待ち合わせている場所。そこに不穏な雰囲気醸し出す緊迫感のあるトランペットの音色が流れ始める。

トランペットを導入した映画音楽、一度聞いたら忘らんにエ画期的な演奏。それが「死刑台のエレベーター」。演奏者はマイルス・デヴィス。監督に頼まれて映画を見て即興で作ったそうだ。題名も内容も奇抜だ。オープニングでスクリーンにアップの電話の主は社長夫人を演ずる当時のフランスを代表する人気女優、ジャンヌ・モロー、この時、55歳。

電話のお相手がその会社の技師（モーリス・ロネ）。インドシナ、アルジェリア戦の落下傘部隊の大尉だったと言う触れ込み。電話を受けた場所は会社内。上が社長室。電話の後、早速、殺しの実行に移す。

社長を無事？（自殺に見せかけ）、殺したままでは大成功。玄関を出て、駐車しておいた車を出そうとふと見上げると、見せかけに使った锚付きロープがペランダに…。慌てて会社に戻り、エレベーターに乗る。そこから始まる地獄のエレベーター…。

【閑話休題】

私がこの映画と音楽を知ったのは、昭和40年代後半か？上野名画座（当時は上野公園に面し、リバイバル専門の映画館があった）だったか、それとも、関光夫による「夜のスクリーンミュージック」というラジオ番組だったか。映画もさることながら、トランペットの音楽に強烈な印象を持っていた。映画自体は33年に公開された、ヌーヴェルヴァーグ作品



（だそうで、ヌーヴェル…とはフランス語で「新しい波」の意で、1950年代末に始まったフランスの映画運動）。私はまだ若商2年生。この映画と音楽は知らなかった。日本映画では「無法松の一生」がベネチア映画賞（三船敏郎・高峰秀子主演）を獲得。

さて、待ち合わせた場所にいつまでたっても来ないのでイライラするモローちゃん。雨の夜、濡れそぼる彼女、パリの街をさまよい歩くシーンにもモダンジャズのドラミングとともに哀愁のトランペットが吹奏される。勿論、音楽は世界的に大ヒット。ところで、19世紀頃までのパリは下水や糞尿の垂れ流しで結構匂つとつたらしい。だから、強い香水やお花で飾っていたんだそう。江戸の方が清潔であったとか？ そう

言えば、ピレネーに行った時、ホテルはウオシユレットじゃなかったもんな。日本じゃあ標高2千級級の温泉でさえウオシユレットだ。私はトランペッターでは二ニ・ロツソが好きだった。

歌日記「老々介護奮闘記」

(昭和34年卒・第11回) 弓田 博

一昨年秋口から家内が急に足腰が萎えてきて歩行が覚束なくなり、介護保険を申請し「要支援2」の判定を得た。廊下の手摺りの取り付け等介護に備えたのだが、年明け早々に転倒し、胸椎圧迫骨折で自立歩行が叶わなくなり車椅子生活となった。更に追い打ちをかけてパーキンソン病を発症し「要介護4」となり、週4日デイサービスの世話になっている。「老々介護」奮闘の歌日記をご笑覧あれ。

・フレイルに転倒 骨折 脚萎えて 老々介護の腹 括りたり (令5年1月4日)

・手は震え 膝は強張り 肩傾ぎ パーキンソン病 妻を追い撃つ (5日)

・ホイッスルの音に 起こされ 目を擦り トイレ 支える 今夜は四度 (6日)

・車椅子に 縋り よちよち 二十五歩 毎度のトイレに ほぼ三十分 (8日)

・浴室に 髪を洗いて 背を流せば 男の熾火 ほとと点れり (10日)

・さあ、やるぞ デイサービスに 送り出し サボった掃除に 溜めた洗濯 (12日)

・ままならぬ 浮腫みし脚は もどかしく どうして こんなにと 涙する妻 (14日)

・迷惑ばかりと 妻 言えど 案じた認知の 無事に安堵す (15日)

・ウクライナ 想えば 介護は 何ほどぞ 挫ける 気持ちに 活入れ直す (16日)

・午睡させ病院、銀行、
買い物にトイレ気にしつ
急かさる運転 (18日)

・笛が呼び お下の介助
これだけは 目合える仲
夫の役割り (19日)

・チロチロと微かに
ゆばりの 音流れ 妻の命の
調べとも聴く (21日)

・食事をえ入歯外して
口濯ぎ 朝の服薬 六種手渡す
 (22日)

・一日の 介護を終えて
湯に浸り 足腰伸ばせば
ふっと微睡む (24日)

・起床して 浮腫みし 下肢に
メジャー当て 日々に回復
ともに喜ぶ (26日)

・レシピ牽き 吾の俄かの
手料理を 妻美味しいと
眉を上げたり (27日)

・毎朝に 神棚 仏壇
手を合わせ 沢一お里の
電話を想う (28日)

・直ぐ後にと 言いきし妻が
近ごろは 私が先に
直ぐ後にと 言う (29日)

・介護さる 惨めさ 思えば
支えやる 労苦は さ程と
思い至れり (30日)

・支えてる 実は られてると
ふと 気づく 先に 逝かれし
友と 語りて (31日)

・名も 呼ばず 好きとも
言わず 五十年 だけど 愛が
無い 訳じゃ あない (2月1日)

・寡欲にて 心根 優し
妻なれば 手を 携えて
天の 召すままで (3日)

家電品に耐用年数がある様に、人間には寿命がある。後期高齢となると、今日の元気は明日も元気の保証にはなりません。テレビやエアコンの故障同様に、突然その日はやってくる。人生の終末への備えが大切です。



会津若松城と蒲生氏郷

鈴木稔

(昭和37年卒・第14回)

私が若商在学中は広い体育館はありませんでした。その為、私達バドミントン部は、放課後、お城でランニングや柔軟体操などをして、バドミントンは、お城の剣道場武徳殿で練習をさせてもらいました。お陰様で、私は3年生の時、沢井和年君とのペアのダブルスでインターハイ県大会で優勝し、全国大会に出場する事が出来ました。



バドミントンインターハイ県大会優勝

「武徳殿」は、私が若商を卒業して62年経った今も、昔のまま残っています。懐かしい思い出と格別の愛着のあるお城の歴史の一端をひもといてみました。

お城は「鶴ヶ城」という名前が有名ですが、これは愛称

で、正式名称は「若松城」です。南北朝時代の1384年、葦名直盛が築いた黒川城が鶴ヶ城の前身となります。黒川とは当時の地名です。その後、1592年当時の藩主、蒲生氏郷が地名を黒川から若松に、お城も若松城に改称しました。鶴ヶ城という愛称を付けたのも蒲生氏郷です。

明治元年に戊辰戦争が終わり、お城は県庁舎として使用されました。新庁舎が完成した為、お城が不要になり明治政府が一般入札にしました。しかし、人札希望者がいなかった為、権令(地方長官)と旧会津藩士の町野主水らが862円余りで入札しました。

明治7年に石垣と堀を残して天守閣・城内の建物全部が取り壊されました。その後、城跡が競売にかけられ旧会津藩士で当時、仙台七十七銀行の頭取だった遠藤敬止が「城跡に

は戊辰戦争で亡くなった幾千もの魂が残っている。残して千古の記念にすべきである」と決意し、私財2500円で落札し、旧藩主、松平家に献納しました。その後は、明治36年に市の公園に、大正15年には若松市の所有に、昭和9年に国指定の史跡になりました。昭和29年の市議会で天守閣の再建(賛成18、反対16)が可決されました。財政難だった為、巨費は市民はじめ全国各地からの寄付が充てられま

した。予定していた寄付金額を大きく上回りました。会津と山城に対する人々の熱い想いの現れです。そして、念願の天守閣が昭和40年9月17日完成しました。不滅の名城、会津若松城は、今も会津のシンボルとして、多くの人々に親しまれ愛されています。

歴代の領主で会津に大きな影響を与え、貢献したのは蒲生氏郷です。武勇と知略に秀でた氏郷は、織田信長の娘婿で豊臣秀吉の命を受け、伊達政宗の監視役として会津の領主になりました。すぐに、7層の天守閣を持つ若松城を築き、武家と町家を分割した城下町を建設しました。

会津若松城と歴代領主

源頼朝が鎌倉幕府を開いたあと、鎌倉御家人の佐藤義隆が会津を領地として与えられました。1384年、佐藤一族の重名高直が築いた「黒川城」が、黒川城および鶴ヶ城の前身です。「黒川」は当時の地名です。

伊達政宗が重名氏を破り会津入りします。翌年、豊田秀吉が北条氏を討伐するため、伊達政宗に出陣要請を送りますが、これに遅れて出陣したことで、政宗は会津の地を没収されます。

秀吉は奥州仕置を行うため会津に滞在し、ここで蒲生氏郷の会津拝領が決定されます。この時に、黒川の地名を氏郷の生まれ故郷近江にあった「若松」からとって若松に変更しました。また、氏郷の幼名鶴千代から、鶴ヶ城という城の通称を付けました。1593年に7層の天守閣を築きましたが、その2年後氏郷は40歳でこの世を去り、子の秀行が跡を継ぎましたが、秀吉の命令で宇都宮に移封されました。

上杉景勝が会津領主となりましたが、その年豊田秀吉が死去しました。景勝は徳川家康と対立を深め、家康は景勝を討つべく会津へ向け出兵。ほどなくして石田三成が家康討伐のために挙兵し、関ヶ原の戦いが勃発しますが、石田三成率いる西軍は敗退。景勝は戦わずして負けが決まり、会津を没収されました。

関ヶ原の戦いで家康に付き軍功を示したことで、蒲生秀行が再度会津の領主となりました。この10年間で会津地方を大地蔵が豊い、石垣は崩れ、天守閣は傾いて瓦が落ちるなど、大きな被害がありました。地震の翌年に秀行が亡くなり、秀行の子が跡を継ぎましたが15年後に病死。後継ぎがいなかった為、蒲生家は断絶しました。

加藤嘉明が新たに会津領主となりました。その後、子の明成が跡を継ぎ1639年から鶴ヶ城の大改修に着手しました。現在の鶴ヶ城の姿が整えられたのはこの時で、天守閣も7層から5層に変更されました。こうした城の大改修は、幕府が発布した武家諸法度に反するとして、明成は会津を没収されました。

保科正之が領主となり、城の大改修により逼迫した藩財政を立て直しました。その後保科家3代目のときに幕府から松平姓と幕政の使用を許され、これ以降保科家は松平と名乗り、幕政も幕政を使用します。そして7代藩主松平容保の代、1868年の鳥羽伏見の戦いから始まった戊辰戦争で、会津藩は徳川幕府と共に終焉を迎えました。

では会津の特産品になっていきます。このように、蒲生氏郷は治世わずか5年足らずで、会津に大きい足跡を残しました。

会津藩の史跡を訪ねて

芳賀 勇

(昭和38年卒・第15回)

その1

平成3年11月、会津若松駅長から「会津藩ゆかりの地をたずねて」という企画で、団体客が横須賀に行くので、「駅長から団長に花束の贈呈をお願いしたい」との話がありま

さらに、市中に楽市・楽座を導入して商業の復興に努めました。また、地名を氏郷の生まれ故郷、近江にあった「若松の森」から若松と変更しました。我々の母校、若商の会津若松市米代は約430年前に氏郷が城下町を造った時に名付けられた町名です。さらに、氏郷は松坂や近江から多くの商工民を呼び寄せ、「会津漆器」「日本酒」「絵ろうそく」「起き上がり小法師」などを生産し、今



あります。

した。9日、45名が横須賀駅に到着し、花束贈呈と歓迎式典を行いました。その時の挨拶で、「私も皆さんと同じ会津の出身です」と自己紹介をしたら、皆さんビックリするやら、歓迎の拍手(?)を頂きました。

この三浦半島には、会津藩士の墓があります。徳川幕府は鎖国政策をとっていたため、長崎以外は貿易を認めていませんでした。そのため、外国船が通商を求めて出沒したため、海岸防衛の必要性が生じました。そこで、会津藩には三浦半島、白河藩には房総半島にそれぞれ台場を築き、守備を担当するよう命じました。が、その任務の遂行中に藩士が病に倒れました。彼らを用うために墓が建てられ、横須賀市と三浦市に全部で80余基あります。

その2

平成19年9月30日から10月2日、2泊3日で稚内く礼文く利尻島と巡り、夕食後偶然にホテルの女将から「ここには会津藩士の墓があるのよ」と聞き、墓地にお詣りすることになりました。早朝6時にタクシーでホテルを出発し、「利尻礼文サロベツ国立公園」を目指しました。公園内の小高い丘には「会津藩士の墓」の看板と3基の墓石が若松方面を向いて立っていました。

この地は蝦夷防衛の命を受けた会津藩士総勢1300人が文化5年(1808)1月2日、若松城を出発し、6月1日利尻島に到着。鷺泊(おしどまり)本泊を守備本陣として、鷺泊港町内に布陣しました



その2

平成19年9月30日から10月2日、2泊3日で稚内く礼文く利尻島と巡り、夕食後偶然にホテルの女将から「ここには会津藩士の墓があるのよ」と聞き、墓地にお詣りすることになりました。早朝6時にタクシーでホテルを出発し、「利尻礼文サロベツ国立公園」を目指しました。公園内の小高い丘には「会津藩士の墓」の看板と3基の墓石が若松方面を向いて立っていました。

この地は蝦夷防衛の命を受けた会津藩士総勢1300人が文化5年(1808)1月2日、若松城を出発し、6月1日利尻島に到着。鷺泊(おしどまり)本泊を守備本陣として、鷺泊港町内に布陣しました

人々に感動を与え、新しい生活の喜びを創出します

愛和電気 株式会社

代表取締役社長 **伊藤 秀一**

〒252-0815 神奈川県藤沢市石川 2-26-21
TEL : 0466-86-6181 FAX : 0466-86-6182 ・ 6183
http : //www.aiwa-elec.co.jp/

写真とカメラ **サイトウ**

齋藤写真館・写真館 さくら

本 店
会津若松市栄町6-15 TEL 0242-24-0567

齋藤写真館 会津若松市栄町6-15 TEL 0242-24-0567
写真館さくら 会津若松市町北町始字北107-1 TEL 0242-37-1223
カメラのサイトウ https://saitoucamera.jp カメラのサイトウ 検索

(利尻島には160余名が布陣)。
 守備兵は寒さ等のために病に冒され、故郷会津を偲びながら死んでいったそうです。墓は本泊に3基、港町に3基、沓形に2基。墓石は会津から新潟、海路鴛泊に運んで建立したものです。
 なぜ、ここに横須賀市と利尻島の会津藩士の墓に触れたかと申しますと、横須賀市には三浦半島会津藩士顕彰会があり、地元の方のご努力で毎年法要が営まれ、会津からも参列しています。が、利尻島は遠方です。草花のきれいな観光の島ですので、行かれた時には足を運んで墓参をし、故人を弔ってはいかがかと思いい、筆を執った次第です。



団子さし

室井 軍三
 (昭和39年卒・第16回)

小正月(旧1月15日)に行われ、1年の豊作物の実りや幸せを願う行事です。今年は2月24日が旧暦の1月15日にあたり、本名会長、三浦副会長、五十嵐幹事長がお見えになり、全員で団子を丸めましました。団子は即、茹でて、茹で上がった団子を団扇で艶が出てくるまで扇ぎ、「みず木(団子の木)」の枝先の新芽をとりそこに団子をさしました。
 さらに、鶴亀・宝船・鯛や米俵、恵比寿様、千両箱・大判小判の飾りつけ、豊作や家内安全、一家繁栄、無病息災を願いました。心をこめて飾りつけをしました。



出来上がった後は、団子の

喜寿を迎えます

成田 トミ子
 (昭和41年卒・第18回)

前で皆さんと写真を撮り、最後は塩辛、刺身、キムチ、エビチリソース、すいとん、日本そばのメニューで乾杯をし、夜遅くまで飲み楽しい小正月でした。



15年前になるかな。砂町銀座(江東区)の七夕まつりで孫と一緒に金魚すくいです。ツトした3匹の金魚。今では1匹だけになりましたが、真っ赤だった金魚が今じゃ真っ

白。人間と一緒に老化現象なんでしょうね。

今年で私も喜寿を迎えます。思い起こせば、楽しかったことしか浮かんできません。特に若商会の会員になり、大勢のみなさんとお知り合いになれたこと。色々な行事に参加させていただき、楽しい日々を送ることができました。最近では、足腰も年相応に痛み、自分では元気印と思っていました。が、かいかぶりでした。

あと何年お付き合いできるかわかりませんが、できる限り色々な行事に参加させていただくつもりです。これからもよろしく願っています。

認知症と成年後見制度の見直しについて

長谷川 哲雄
 (昭和43年卒・第20回)

前回第21号では市民後見人の会について投稿した。今回は、成年後見制度をめぐる見直しに法務大臣の諮問機関、法制審議会で検討されることについて紹介する。

現行の成年後見制度は、1

東京若商会推薦・特割有 **ニューキプロス**

グルメ
 ドリンク
 カラオケ

千代田区外神田
 6-6-9
 電話
03-3831-5030

芳賀清喜税理士事務所

税理士 **芳賀 清喜** 昭和48年卒(第25回)

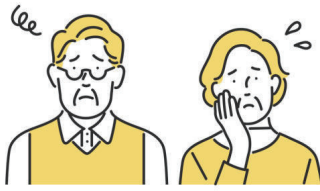
〒169-0075 新宿区高田馬場4-10-8 HIKビル202

TEL・FAX 03-3365-5933

業務内容
 税務・経営相談・決算・申告・税務代理・その他税務一般

度利用するとやめられない。判断能力が回復しない限り、後見人を解任できない。報酬は弁護士などの場合、月額数万円程度が継続負担となる。その為、利用者のニーズに対応可能な見直しが改正の目的である。

認知症が60万人と推計される中で成年後見制度の利用者は25万人程度と、利用の低さが際立っており使いやすい制度にすることで利用拡大を図る狙いがある。又、遺言制度の見直しも諮問対象である。特に自筆証書遺言の負担軽減に向けたデジタル化などが焦点となり、遺言者本人の真意の確認や改ざんを防ぐ仕組みの構築などが課題となる。後見人は家庭裁判所が選任するのは言うまでもない。



『引越しと転勤のはなし』

三浦 新治 (昭和44年卒・第21回)

先日、テレビを観ていたらCMのくんだりで「人は生涯、平均4回引越しをする。」というのがあった。：そうなんだと思いつつ、ネットで調べると、古いデータだが国の研究機関の統計では男性4.5回、女性4.0回とあった。正確には生涯ではなく調査時点での回数であって、若い人は今後引越し回数は増える可能性があるのです。それを承知で統計を見るべきとの注釈である。そこでつづら折りの、第4コーナーを曲がり切ったと思われるこれまでの我が人生を振り返りどうであったか指折り数えてみたら「12回」であった。

一説によると、江戸時代後期の浮世絵師・葛飾北斎は90年の生涯でなんと93回、1日3回引越し経験があったとのこと。部屋が汚れれば引越したとの話も。これは別格中の別格で、小生のこの「12回」は世間からみると、多い方に属すると思われる。転勤族の宿命かも。

小学生の時に同級生が突然いなくなる、知らないお友達クラスに入ってくる。当時親の転勤等に伴って家族で引越す際に発生する転校という事象であることはわからなかった。代々、商売をしていた家系に生まれた小生には、「引越し」という概念がなかった。

世のサラリーマン諸兄には甚だ失礼の段、お許しをいただきたいが、小生には何のとりえもなかったことから、サラリーマンにでもなろうと思いい、そしてなった。37年余のサラリーマン生活で、勤務地の所在する都道府県の数は延べで12。引越しはふるさとを離れたことを1回目と勘定して結婚やマイホームへの転居を含めると12回ほどで、辞令の数は多過ぎてよく覚えていない。

引越しは面倒で、転勤には新たな仕事内容の習得がつきもの。赴任先では知らない者ばかりで、生活環境も違う。2、3年が経ち慣れたかと思うと異動発令され、引越しを含めまた苦勞の繰り返しでイヤになったものだが、何度か

繰り返えされると、赴任先にかつての上司や同僚らがいることが多くなる。地元のお人柄にも触れ生活に溶け込むと「住めば都」となる。転勤族もいいものだと思えてくる。職場で働く者や地域の方と出会い、励まされ、支えていただき、宝物を得た。

忘れ難き懐かしのふるさとを離れての学生時代、諸々あったサラリーマン時代、だいぶ経つ退職後の進行中の現生活は総じてまずまずの愉しかりし人生といえる。

今後、「転勤」はあり得ないが、体力の衰弱や認知症の発現などで高齢者介護施設等への「引越し」が13回目としてあるかも……。



地域最大級！あなたの近くの頼れる法律事務所

ときわ綜合法律事務所

- 初回相談(30分)無料！ ● 地元で20年以上の実績と信頼。
- 分野を問わずお気軽にご相談ください。 ● 所属弁護士11名
- 当日の相談、日曜の相談も対応できます。

TEL **047-367-5544** 〒271-0091 松戸市本町 18-4 NBF 松戸ビル 5F

交通至便！

JR 松戸駅西口 徒歩 1分 代表弁護士 小野光寛(昭和45年卒)

五野精養軒

ご宴会・ご婚礼・レストラン

上野公園内
☎(03)3821-2181(代)
www.seiyoken.co.jp

私の肩こりの改善策

小林 謙二
(昭和48年卒・第25回)

去年の9月ごろから肩こりがひどくなり、老いを感じ始めてきました。長年の経理の仕事でパソコンと向き合う仕事のため、首筋、肩の周り、腰にかけてコリを感じます。そこで原因を調べて対策を始めました。

肩こりといっても、その原因は人さまざままで特に多いのが、同じ姿勢、眼精疲労、運動不足、ストレスが4大原因だそうです。

そのうち、同じ姿勢と眼精疲労はデスクワークなど、特にパソコンやスマホの長時間使用により起こります。またパソコンやスマホの操作をするとき、首を前に突き出す姿勢になり、首から肩の筋肉に緊張性の疲労が生じ、血流が悪くなり肩こりを起こしやすくなります。パソコンやスマホの場合、光源を見つめているのと同じなので目が常に緊張を強いられ、まばたきの回数が減ります。通常は毎分15〜20回程度なのですが、1〜

2回に激減するそうです。そのためドライアイから眼精疲労を起し、肩こりの原因となります。予防策として、作業の合間に首や肩をゆっくり回して、筋肉の緊張をほぐすこと。ときどき立ち上がって手を上に伸ばしてブルブル振る。軽い屈伸をすることで全身の血流を促すと筋肉の緊張緩和に役立つそうです。

一方、眼精疲労の予防には、目薬を差したり、ときどき1〜2分間、目を閉じて休ませたり、窓の外を遠く眺めたりするだけでも目の緊張がほぐれるそうです。さらに指先で、こめかみあたりを優しくなでるように円を描きながらマッサージするとより効果的です。運動不足の改善策は適度な運動。運動それ自体が血流を改善する効果があり、筋肉量の低下を防ぎ柔軟性を高めて筋肉をしなやかに保ちます。筋肉は血液を送るポンプのような役割をしており、運動を継続することで全身の血流の改善を促します。ストレスによる肩こりの解消も運動が効果的です。体を動かすことで気分転換にもなるそうです。

よって私の肩こりの改善策は、パソコンによる予防策を実行し、朝の散歩で近くの公園で鉄棒にぶら下がり、鉄棒に首までは上がらないので懸垂もどきをし、スクワットをする運動をしています。それと、たまにマッサージもしてもらっています。これにより肩こりも徐々に改善しております。

これからも老いと向き合い、身体とうまく付き合いながら健康維持に努めていきたいと思っております。

九州一周の旅

根本 文昭
(昭和50年卒・第27回)

令和5年6月、福岡県博多まで飛行機で行き、レンタカーで九州を一周。中州の屋台で、鉄なべで焼かれた小ぶりの餃子をいただく。美味。

2日目は太宰府天満宮、九州国立博物館、さらに佐賀県に入り、吉野ヶ里遺跡へ。弥生時代にタイムスリップした心地で、武雄温泉に。



3日目は世界遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の平戸市の春日集落、キリシタン資料館等を見学。初めて潜伏／隠れキリシタンの違いを知る。幕府がキリスト教を禁止・弾圧し、1873年に政府が禁教令を解除するまでの約260年間、宣教師なしでキリスト教の信仰と継承を続けた。解禁後、信者の多くはカトリック教徒へ復帰して、教会堂を建てた。これが「潜伏」キリシタン。

長崎市入り。世界遺産の大浦天主堂。平和公園、原爆資料館、浦上天主堂で原爆の恐ろしさ与人間の愚かさを再認識。

ところが、解禁後もカトリック教徒に戻らず、独自の信仰を続けた人々がいた。「隠れキリシタン」だ。因みに春日集落は「隠れキリシタン」。

4日目は佐世保市の日本本土最西端の地・神崎鼻に佇み、

5日目は長崎市内観光。眼鏡橋、出島、グラバー邸を見学後、稲佐山から晴れた長崎市の絶景を眺めて、雲仙普賢岳へ。6日目は1637年に天草四郎を中心に、約3万人ものキリシタンが襲撃した島原城と籠城した原城跡を見学。飢饉と重税はいつの時代にも。フエリーで熊本に渡り、2016年に被災した熊本城を見学。完全復興までに30年は要するとか。

7日目は潜伏／隠れキリシタンの総まとめとして、天草市の天草キリシタン館と崎津教会を見学。その後、牛深港からフェリーで鹿児島の蔵之元港に。一路、鹿児島市内へ。8日目は西南戦争で西郷どんが籠城した鶴丸城へ。仙巖



今回の最西端に続き、最南端の佐多岬へ。地球が丸い！ジャカラランダの咲く南郷を指して北上し、鶴戸神社、青島神社を参拝して、宮崎市に。

10日目は神話の故郷・高千穂へ。天岩戸神社、高千穂峡を見学。観光パンフでよく見る光景。別府温泉に投宿。

最終日は福岡県に戻り、「明治日本の産業革命遺産」の1つ官営八幡製鐵所を見学。さらに、世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」の1つ宗像大社辺津宮を参拝。神宝館には沖ノ島から出土した金の指輪などの国宝がびっしり。吉野ヶ里遺跡の出土品も含めて邪馬台国の九州説を裏付けるかのような展示品の豊富さに驚嘆。福岡空港から一路羽田に。

園から桜島を望む。世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の1つ旧集成館の「反射炉跡」を見学。

南下して、知覧特攻平和会館へ。遺書や手紙から家族や友人等への愛の深さに嗚咽。開聞岳を後に、指宿へ。

9日目は指宿から根占へフエリーで。昔訪れた最東端(納沙布岬)、最北端(宗谷岬)、

今回の旅では、現地で初めて潜伏／隠れキリシタンの違いを学び、さらに3つの世界遺産の一部を垣間見ることができた。10日間での一周だったが、もう少しゆっくり回りたい旅でもあった。

会津を想う

谷吹 利男
(昭和50年・第27回)

(1) 「八重の桜」から10年近く会津まつりに参加している綾瀬はるかちゃん。たぶん会津が大好きなのであろう。しかしトップ女優である。ゲセツで恐縮だが、大谷選手のこともある。ギャラはおいくらほど。会津若松市の財政は大丈夫かと、余計な心配をしましょう。

「苗場」はリフト1時間待ちが当たり前。ここはデイズニールンドか。会津のスキー場も数が増えた。「ネコマ」では「ねこまんま」のメニューが。注文。出てきたものはなんと「ご飯にかつお節」がのっているだけ。え、一同ア然。友人が会津の郷土料理かと聞く。そんなはずネエベシタ。

(2) 3・11 実家は崩壊してないか。何せ半世紀近くにもなる家屋だ。親は予知能力が、埼玉の姉の所に疎開中。空き家状態。新幹線は使えず鬼怒川経由で帰った。無事であった。「お家安泰」職場から借りてきた計測器で放射能を測定。「セーフ」その後市内を散策。鶴ヶ城の駐車場には車が1台も止まっていない。ひとつこひとついいない。風評恐るべし。

(4) 若商から今何かとお騒がせな日大へ。商学部会計学科へは3人。「3人寄れば会津弁」おかまいなし。文殊の知恵はどこへやら。これではいけないと奮闘努力したが、イントネーションが直らない。とうとう就職先で「あのズーゾー弁の人」と。ムム、私のことか。ちよつと違うんですけど、と思ったが言えない。

(5) 就職は医療法人。白衣の天使とルンロンなどというふらちな考えは当方持ち合わせしていない。命を預かるという

①同じ東北の絆、②軟弱性格虚弱体質、③ひとみしり、真相は定かでない。もうすぐ迷宮入りだ。

(3) 「スキーこそものの上手なれ」さてどうか。働き出してから突如スキーに目覚めた。「私をスキーに連れて行

崇高な理念からだ。病院の医療事務へ。仕事のひとつに保険請求がある。3割が自己負担(窓口会計)だと残り7割を請求する作業だ。新人だったのでやったものを先輩が再度点検。「ヤブキくんは会津の人だね」ナニ、急にどうした。どうやら切迫早産の病名を「切腹」早産と書いてしまったらしい。みんな大笑い。はずかしい。どこぞに穴はないか。それにしても切腹Ⅱ白虎隊Ⅱ会津Ⅱヤブキという先輩の思考回路はなぜか嬉しかった。

会津に生まれ育ったことはこんな私でも自慢である。会津には、歴史がある。文化もある。豊かな自然もある。観光地という看板もある。「ふるさととは遠きにありて思うもの」「誰か故郷を思わざる」会津を離れば思いは強くなる。誇れる会津であることに「まちがいはない。みんなもそう思っているに違いない。



短 信

令和5年同窓会総会出欠葉書の「自由通信欄」からの抜粋

佐瀬 善彦

(昭和28年卒・第5回)
残念ながら欠席します。ご盛会を祈ります。

佐藤 正俊

(昭和30年卒・第7回)
盛会を祝す。

高森 真六

(昭和30年卒・第7回)
欠席します。

木村 英二

(昭和34年卒・第11回)
役員の方々ご苦勞様です。申し訳ありません。盛会を祈ります。

弓田 博

(昭和34年卒・第11回)
欠席します。盛会を祈ります。

坂内 幸英

(昭和35年卒・第12回)
折角お誘いくださいました

のに残念ながら体調を崩して、出席できません。次回は治して出られるように頑張ります。

植木 紘一

(昭和36年卒・第13回)
元氣ながら所用で欠席します。

小林 豊

(昭和36年卒・第13回)
久しぶりに開けてよかったですね、盛会を祈ります。

雪下 正栄

(昭和36年卒・第13回)
盛会をお祈りいたします。

渡部 武禧

(昭和38年卒・第15回)
出席できず、残念至極。

兼子 亨

(昭和41年卒・第18回)
申し訳ありません。今回も不参加とさせていただきます。盛会を祈念いたします。

長谷川 哲雄

(昭和43年卒・第20回)
自主防災隊定期総会と重複のため、欠席です。残念です。

吉田 滋

(昭和44年卒・第21回)
当日は所用のため出席でき

ません。東京若商会の益々の発展を祈念申し上げます。

阿部 清功

(昭和45年卒・第22回)
欠席します。

矢島 マユミ

(昭和45年卒・第22回)
いつもご連絡やお誘いを、ありがとうございます。中々出席できずに、申し訳なく思っております。ありがとうございます。益々のご繁栄をお祈り申し上げます。すばらしいですね。

遠藤 輝喜

(昭和50年卒・第27回)
当日、所用で東京を離れており、欠席します。

岡田 マリ子

(昭和50年卒・第27回)
ご連絡ありがとうございます。なかなか都合がつかず出席できませんが、ご盛会をお祈りいたします。

越田 賢二

(昭和52年卒・第29回)
情報処理科第1期生です。同窓生を取りまとめる先輩方には大変感謝申し上げます。

渡部 昇司

(昭和52年卒・第29回)
次の週に国家試験があり、それに向けての準備のため欠席します。

穴澤 真理子

(昭和53年卒・第30回)
お世話になっております。出席できず残念です。旅行や孫との遊び、ガーデニング、ボランティアなどで充実した生活を送っています。

五十嵐 仁

(昭和54年卒・第31回)
若商会の運営ありがとうございます。

小林 利浩

(昭和54年卒・第31回)
総会開催おめでとうございませす。今回は娘の出産と重なり、申し訳ありません。

花澤 順子

(平成7年卒・第47回)
同級生が出席するとわかれば出席したいところですが、子供の都合もあり欠席となり、申し訳ございません。



電子部品の専門店
ELECTRONICS

株式会社 若松通商

本社：東京都千代田区外神田 1-15-16
会津営業所：福島県会津若松市駅前町 7-12
https://wakamatsu.co.jp/waka/

雪谷営業所：東京都大田区雪谷大塚町 6-6
E-mail:waka@wakamatsu-net.com
昭和 39 年 (16 回) 卒 室井重三

若 商 剣 友 会

会長 鈴木 泰男

〒965-0865 会津若松市川原町2-12 (森浜製麺所内)
事務所 TEL・FAX 0242-27-5031
携 帯 090-1490-2927 森山亮一

同期会報告

第7回同期会

中野 善次
(昭和30年卒・第7回)

前回の同期会は令和元年9月12日に青山の三菱UFJ銀行の青山荘で開催しました。その間、残念ながら、コロナのため同期会は延期せざるを得ませんでした。

令和5年9月12日に開催することができました。参加者は中央線武蔵小金井駅で待ち合わせしました。久しぶりに会うため、心が弾んでいました。宴会場はTERAKOYA(寺子屋)です。武蔵野の雄大な自然に恵まれており、他ではあまり見ることができない施設です。

昭和29年創業。風雅な庭園と趣向を凝らした料理のレストランとして半世紀にわたり、歴史を重ねたところです。春は花、秋は紅葉と四季折々に違った景色を観ることができ、快晴の日には遠く富士

山や丹沢の山が眺められます。また、武蔵野の自然を残すこの一帯は歴史、芸術、小説の舞台になり、良く広く知られており、緑豊かな庭園には茶室「寂庵」と観音堂を配しています。

今回の参加者は10名で今までで1番少なく、寂しい限りでした。小山文美幹事の挨拶の後、ふるさと会津から大橋寛一様が会津坂下の銘酒「飛露喜」を持参され、会津の話、同級生の話、近況報告等があ



り、約2時間旧交を深めることができて、楽しい1日となりました。最後に全員で写真を撮り、散会となりました。

幹事の小山様には素敵な場所(チョッピリ高い?)を提供していただき、ご尽力に感謝いたします。

遠く会津から参加された大橋寛一様ありがとうございました。



【今回の参加した10名

(敬称略)

- 小山文美、大橋寛一、安部正夫、天野昭男、上田昌源、金田有弘、斎藤三雄、七海定雄、安川均、中野善次



第11回同期の会「三四会」

青山 典
(昭和34年卒・第11回)

観測史上最も暑い夏になった2023年はシニアの我々には一段とこたえる気候でしたね。そんな中、各幹事さんよりコロナで中止していた22回目(途中中止含む)の同期会開催の意見があり、暑気払いを兼ねて実施致しました。

10月2日に11名が天候にも恵まれ、東京大学赤門前に集合致しました。各自集合時間迄安田講堂や三四郎池や構内を散歩したりと日本の最高の頭脳が集積している所の雰囲気味わいました。IS君等は構内で迷ってしまい、将来総理大臣になるかもしれない学生に集合地まで連れてきてもらおうというハプニングもありました。

その後、構内にある某実業家が寄贈した地下2F地上5Fの国際学術研究センター内のフランス料理レストランで会食を致しました。

2024年は辰年。我々一同は年男になります(84歳)。

辰年生まれの人には書籍によりまずと「先見の明があり、人の先を行きスケールの大きな夢を持っている人」と謂れており、各自自信をもって人生を歩いてきました。有名人では王貞治、大鵬、吉川英治、手塚治虫、坂本龍一、24年の大河ドラマ紫式部役の吉高由里子等です。

食事をしながら各自久しぶりの再会に若商時代の思い出や現在の様子など話しながら一流シェフの料理に舌鼓をうちました。

最後に、「来年も是非やる事」と「6月の総会には参加する事」を誓い、第22回「三四会」を解散致しました。



懐かしの伊香保へ

三浦 新治
(昭和44年卒・第21回)

本来なら東京若商旅行会が実施となるはずだったその日に、降って湧いたように同期会旅行が出現するとは思ってもよらないことであつた。10月15〜16日の2日間、宿泊地は石段街が魅了する上州・伊香保温泉で、その周辺を散策した。

東京若商旅行会参加のために取得した有給休暇が、旅行中止となってムダとなるので「どうにかして、どこかに連れてって！」という趣旨の要望が同級生からあり、提案を受け、同期会旅行をするハメとなった。どこへ行くのか計画を練りながら、総会にいつも出席してくれている同級生仲間への参加呼びかけを同時並行的に行うことに。

旅行概要はまとめたものの肝心な宿が決まらない。困り果てて頼ったのが東京若商旅行会時にお世話いただいた6年前の伊香保温泉のあの宿だ。幸い、女将も若女将も思い出

してくれて、ムリを聞いてもらい何とか確保。かくして小回りの利くマイカーにて出発に至った。

榛名富士に向かうロープウェイに乗っていたとき、近くにいたおっちゃんとお話する中で、是非行くべきだと勧められたのが「榛名神社」。榛名湖を一回りした後行ってみた。長い歴史を持つ由緒ある神聖なる神社で、心洗われ味わい深い雰囲気を感じる事ができた。

現地では晴天に恵まれ、紅葉の名所や飲泉所などにも立ち寄ることができた。また東京若商旅行会時の若女将の写っ



ている写真を持参したら感激され、ここだけの内緒の話、お土産までいただいた。いいことづくめの変化に富んだ今回の旅、実のところ旅行参加者は3名。突然でもあり仲間も多くは都合がはずでした。勝手な解釈だが、少数精鋭の厳選者のみ。すったもんだしたが同期の友情、温かみを感じ取れた珍道中となった。

元気でまた会おう!!

本名 喜久造
(昭和45年卒・第22回)

コロナウイルス感染が5類に移行後の令和5(2023)年10月7日(土)、4年振りに第9回の同級会を開催した。会場はJR御徒町駅前の吉池食堂《池田屋》。同級会会長兼幹事の本名が8月中旬に登録会員20数名に開催案内出状。当初15名の参加の返事があつたが開催間際に数名都合が悪くなり、当日はいつもの顔ぶれに久々のメンバーが加わり、11名の参加となった。丸3年のブランクがあり古

希を過ぎているので急に老けたりしていないかと少し心配したが、みんな元気で何の心配も要らなかった。まだ働いている者、シルバー人材センターやボランティア活動などの社会貢献に頑張っている者など盛年を謳歌しているようだ。今回の同級会次第は、

- ① 校歌斉唱
- ② 幹事挨拶(本名)
- ③ 乾杯(佐藤泰久)
- ④ 近況報告(全員)
- ⑤ 懇親・懇談
- ⑥ 写真撮影
- ⑦ 中締め(亀井)と続いた。

皆で会津銘酒『ロマン(花泉酒造)』をいただき、会場が和やかな雰囲気にも包まれ宴たけなわとなった。また今回は長谷川誠二君が『卒業アルバム』を持参したので同時にタイムスリップ。50年以上経過しても一緒に集い旧交を深め合える幸せを改めて感じた次第。

2次会は、御徒町駅近のカラオケ店へ。当同級会は「のど達者」が多くその中でも佐藤喜代美君・長谷川進君はプ

口級だ。懐かしい歌が中心だがみんな十八番を歌い楽しむ事ができた。締めは舟木一夫の『仲間たち』を輪になり肩を組み合唱してお開きとした。あつと言う間の同級会でした。次回もみんな元気で再会することを誓い合つて散会した。お疲れ様でした。

【今回参加者】 (敬称略)
伊藤美子・宇内節子・生形修司・亀井美津子・國分公二・阪谷サヨ子・佐藤喜代美・佐藤泰久・長谷川誠二・長谷川進・本名喜久造



同好会報告

ゴルフ同好会

『佐藤英幸さん優勝!』

国府 義次
(昭和39年卒・第16回)



関越自動車道所沢ICで降り、浦和所沢バイパスを入間方面に向かう。天気にも恵まれ、定刻にスタート。午後、ぽかぽかな陽気となり半袖でプレイしました。
午前中の結果は4名の方々が46打数で並び先頭を競っていました。

午後は五十嵐さんが41打の素晴らしい記録を出しました。これで優勝が決まりか?と思われたが、佐藤さんがアウトで2打差、インで4打差と追掛けて、有効に使うハンデイがあり見事優勝しました。(2023年4月19日開催)

◆入賞の方は次の通り◆

成績	入賞者(敬称略)	卒年	グロス	ネット
優勝	佐藤 英幸	S63	93	74
準優勝	五十嵐 健	S50	87	77
3位	渡辺 治男	S35	87	80
ベストグロ	五十嵐 健	S50	87	77

【お知らせ】

世話人選出について

成績発表後に世話人選出をしました。全員一致で佐藤英幸さんを選びました。

世話人

国府 義次(昭和39年卒)

室井 初男(昭和43年卒)

佐藤 英幸(昭和63年卒)

【新規会員募中】

一緒にプレーしましょう。ゴルフ同好会は、創部20周年を迎えました。

名所旧跡巡り同好会

『約10kmの名所・旧跡巡り』

上杉 敏男
(昭和34年卒・第11回)

3月31日、初夏のような、そして目に飛び込む新緑のこの日、実施しました。

今回のコースは上中里駅を出発して、旧古河庭園↓六義園↓染井霊園↓慈眼寺↓本妙寺↓妙行寺↓すがも鴨台観音堂↓高岩寺↓巢鴨駅までという全長約10kmというもの。

朝10時、上中里駅に相田、上杉、宇月、本名、三浦、室井(初)の面々が集合。そして、嬉しいことに室井氏のお孫さん(高校生と小学生)も参加してくれたんじゃない。

一同、勇躍して出発。10分後(約100歩)、旧古河庭園着。建物は天然スレート葺きレンガ造り(英国貴族の邸宅に做ったもの)。陸奥宗光所有だったが、後、古河家の所有になった。バラも有名だが、時期尚早で咲いておらず。

11時、六義園に向かう。15

分位歩いて(約1650歩)、六義園着。切符売り場周辺は大勢の人だかり。ガイドの案内で同園を見学。同園自慢のしだれ桜は五分咲き。六義園の名称は『詩経』の六義に由来するんだそうだ。將軍綱吉の時代、家臣柳沢吉保が造ったものだそう。大名庭園で、紀州の和歌の浦の景勝地をイメージして、古今和歌集の和歌八十八境を現出したんだって。勿論、当時は庶民は入れなかった。

綱吉は生類憐れみの令を出したバカ殿で有名だが、ガイドはこの庭園によって綱吉を評価する人も居ると説明。そう言えば、作家井沢元彦も敵を殺す時代も過ぎ、辻斬りの流行から綱吉によって動物や人間を大事にする令だと、綱吉を評価しているんじゃない。

また、ガイド氏は、池の水は木製の水道管を埋め込み、高低差を利用して誘い込む等の江戸は清潔であり、比してパリは汚物を投げ合うような所と言った。それを聴いて我が輩は今回、投稿している「ビバ!映画音楽」に同じようなことを述べているので

苦笑を禁じ得なかった。

さて、昼食後、13時、染井霊園等に向かう。長丁場歩きのはじりである(約30分、3100歩)。染井霊園や慈眼寺等では芥川龍之介、谷崎潤一郎、小林平八郎(赤穂浪士の討ち入りでの吉良家の用心棒)、千葉周作、遠山金四郎、困碁の本因坊、四谷怪談で有名なお岩様の墓等を詣でた。中でも、妙行寺のお岩さんのそれは沢山の塔婆やお花で賑やかに飾られていた。お岩さんは実際は良妻賢母で夫婦仲がとっても良く家を栄えさせたとも言われています。何でも、願い事を一心に願えば叶うという「心



願成就祈願」で、いろいろな方が、特に若い女性が訪れるんだそうです。大発見じゃわい。一連のお墓を詣で、すがも鴨台観音堂に向かう(約10分、1100歩)。ここには近代的な「ごえん堂」があつて興味深い。ついで、とげ抜き地蔵の高岩寺まで歩きお参り。これにてコース終了。

巣鴨駅近くの懇親会場に向かう。ここで、酒井氏参加。同氏がわざわざ横浜から参加してくださつた。頭が下がる。総勢9人で反省会。皆で元気に歩いて良かった。

【今後の課題】
3月23日実施予定の時は14名参加の予定だったが、雨で順延。半分になつてしまったが、お孫さん参加でホントに良かった。ンだけんじよ、もう、常連者による参加は(老歳のせい)減るばかり。今後は会員をどう集めるかが課題だ。予定日を定めて会報や若商会ホームページで募集する等真剣に考える時期に来ているような気がする。

旅行同好会

『ご一緒にませんか』

三浦 新治
(昭和44年卒・第21回)

突然ですがクイズです。次のうち、旅行同好会の旅行スタイルはどれでしょうか？ ①気ままな行き当たりばつたりの旅タイプ、②職場の慰安旅行的宿泊ホテル直行直帰型タイプ、③旅行社ツアーの各地立寄り添乗員付きタイプ。……解答は後ほど。

コロナによる外出自粛などでここ数年、同好会の宿泊を伴う旅行は実施に至っておりませんが、今年こそみんなで愉快な旅にしたいと願っております。

移動中のチャーターバスの車内で、興味津々話題性のある話に触れたりクイズをしたり、ビール片手にツマミをかじりながら目的地に向かう。名所旧跡などの地に立寄り、夜は持ち込んだ会津銘酒や参加者手造りニシンの山椒漬けなどの懐かしふるさとツマミで盛り上がる2次会等々、2日間のお楽しみ満載の旅行です。歴代の世話人が工夫

文化芸能鑑賞同好会

『みんなで寄席を楽しもう』

五十嵐 健
(昭和50年卒・第27回)

に工夫を重ねて現在の旅行スタイルとなっております。冒頭のクイズの答えですが、正解を入れ損ねてしまいました。列挙した中で強いて言えば、③に近いスタイルでしょうかね。

参加費の都合上、世話人である小生の素人添乗員のもと、味のある旅行を目指しています。満足度アップのためであれば意見要望を反映したスタイルに変化してもいいと思っております。

参加される皆さまが主役ですので、若商会の仲間みんなで盛り上げましょう。

普段の日常生活からちよつとだけ離れて自身を違った環境に置く。これを勝手ながら旅と思っております。みんなで楽しく出かけましょう。ちよつとそこあなた！ご一緒にませんか。

お忙しい中、12名の方に「参加いただき、ありがとうございます」ました。

11時20分に集合し、予約した幕ノ内弁当を受け取り、座席で食事をいただき、16時頃まで寄席を堪能しました。また、終了後は、13名の方と新宿駅前の居酒屋で2次会の懇親会を開催し、楽しく旧交を深めることができました。



2019年(令和元年)10月実施



連絡先)
TEL 090-9795-7539
〒236-0088 さいたま市岩槻区
並木2-5-2-1007
メール：
igarashi11020803@gmail.com

令和6年度も、末広亭で9月開催の予定ですので、ぜひご参加いただきたいと思ひます。

【参加者】
本名喜久造、三浦新治、佐藤順昭、相田誠次、芳賀勇、宇月康男、根本等、佐藤泰久、成田トミ子、長谷川のり子、柴田光子、内田京子(懇親会のみ)、五十嵐健

(これまでの参加者等約50名にご案内を送付)

※入場料200円(シニア料金、通常300円)、弁当代1500円、懇親会の費用も全て参加者負担。

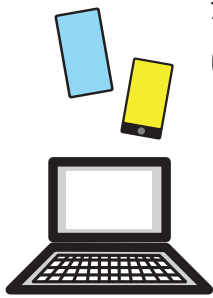
東京若商会 ホームページ紹介

東京若商会では、会員同士の交流を深め、情報交換の場として、ホームページを設けています。

東京若商会の案内や情報、またゴルフ・旅行・名所旧跡巡り・文化芸能鑑賞の各同好会活動、母校在校生の活躍や部活動戦績などをお知らせしています。気軽に参加しやすい会にするための一助になることを願っています。是非、覗いてみてください。

また、若商高ホームページともリンクをさせていて、母校の情報にもふれることができます。

皆さんからも、新たな情報やご意見がありましたら、ホームページ内のEメールでお知らせください。ホームページアドレスは下記を参照してください。



会計監査報告書

福島県立若松商業高等学校同窓会・東京支部 令和5年度東京若商会一般会計及び特別会計

上記会計決算報告書について収入、支出及び関係書類を監査いたしましたところ、相違なく正當に執行されていることを認めます。

福島県立若松商業高等学校同窓会 東京支部 東京若商会 会長 本名 喜久造 殿

令和6年4月13日 監事 芳賀 勇



東京若商会

東京若商会のホームページにようこそ！

ゴルフ同好会・旅行同好会・名所旧跡巡り同好会・文化芸能鑑賞同好会などの情報も！

https://wakamatsu.co.jp/wakasho/

『東京若商会』でも開くことができます。ネット上に校歌、応援歌が流れております。

令和5年度東京若商会一般会計決算報告

福島県立若松商業高等学校同窓会・東京支部

自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

《収入の部》 (単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 決算額, 予算額, 予算比増減, 摘要. Rows include 総会会費, 年度会費, 本部交付金, 寄付金, 雑収入, 小計, 前年度繰越金, 合計.

《支出の部》

Table with 5 columns: 科目, 決算額, 予算額, 予算比増減, 摘要. Rows include 総会費, 通信事務費, 交通費, 会報出版費, 会議費, 交際費, 雑費, 小計, 次年度へ繰越金, 合計.

Summary table for 令和5年度 with columns: 前年度繰越金, 収入合計, 支出合計, 次年度へ繰越金.

令和6年度東京若商会一般会計予算(案)

福島県立若松商業高等学校同窓会・東京支部

自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日

《収入の部》 (単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 前年度決算額, 予算額, 前年度決算比, 摘要. Rows include 総会会費, 年度会費, 本部交付金, 寄付金, 雑収入, 小計, 前年度繰越金, 合計.

《支出の部》

Table with 5 columns: 科目, 前年度決算額, 予算額, 前年度決算比, 摘要. Rows include 総会費, 通信事務費, 交通費, 会報出版費, 会議費, 交際費, 雑費, 小計, 次年度へ繰越金, 合計.

Summary table for 令和6年度 with columns: 前年度繰越金, 収入合計, 支出合計, 次年度へ繰越金.

《令和5年度会費納入者ご芳名》(納入期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日)

<敬称略>

会費のご納入ありがとうございました。記載漏れや間違い等がありましたら、ご連絡ください。また、未納の方は同封の振込票にて納入をお願いいたします。

東京若商会事務局
TEL03(5754)3040
FAX03(3748)6102

【昭和18年卒(旧第29回)】
津國 慶三

【昭和27年卒(第4回)】
東崎 進、遠藤 明男、小森 茂
高木 満雄、芳賀 三良、三橋 孝

【昭和28年卒(第5回)】
阿部 三代司、佐瀬 善彦、舟田 邦一
横山 健次

【昭和29年卒(第6回)】
鈴木 公毅、吉成 正四

【昭和30年卒(第7回)】
上田 昌源、小山 文美、佐藤 正俊
中野 善次、沼田 正夫、安川 均
和田山 清一

【昭和31年卒(第8回)】
酒井 繁、佐藤 順昭

【昭和32年卒(第9回)】
原田 幸喜

【昭和33年卒(第10回)】
相田 誠次、市村 健次、猪俣 信義
小島 博、杉原 光男、竹俣 幸造
橋本 亮、本田 嘉則

【昭和34年卒(第11回)】
青山 典、五十嵐 正吉、上杉 敏男
木村 英二、松川 源郎、弓田 博

【昭和35年卒(第12回)】
青木 啓二、青木 茂男、大川原 和彦
押部 源彦、吉津 友弘、橘浦 節子
日下 義章、黒澤 光子、佐藤 幸子
佐藤 俊一、田付 良雄、藤田 誠
古田 イチ子、渡辺 治男

【昭和36年卒(第13回)】
植木 紘一、鹿目 義孝、小林 豊
鈴木 昭一、新井田 茂司、渡部 和義

【昭和37年卒(第14回)】
宇月 康男、神内 和則、佐藤 幸雄
鈴木 稔、林 惣一、羽山 桂一
水野 嘉巳、山内 佐内、雪下 正栄

【昭和38年卒(第15回)】
田崎 規夫、芳賀 勇、本名 義光
吉川 大八、渡辺 明弘、渡部 武禧

【昭和39年卒(第16回)】
伊藤 重義、国府 義次、馬場 浩
室井 軍三、好川 裕晴

【昭和40年卒(第17回)】
大堀 芳作、奥野 武雄、久家 明夫
佐瀬 宏、齋藤 昇、齋藤 正志
坂井 徹夫、仲島 義嗣、根本 等
横山 邦彦

【昭和41年卒(第18回)】
荒川 静子、池田 和雄、兼子 亨
川島 森夫、中山 三枝子
成田 トミ子、根本 政弘
長谷川 のり子、星 實、村木 隆蔵
室井 広子

【昭和42年卒(第19回)】
中島 陽子、田中 益代

【昭和43年卒(第20回)】
川副 隆、鈴木 誠、高橋 清憲
長谷川 哲雄、室井 初男、森田 明男
山口 常雄、渡辺 美喜子

【昭和44年卒(第21回)】
池田 俊子、猪俣 栄子、笠間 ヤス子
菅野 由美子、木村 正廣、近藤 美千代
佐藤 峰雄、鈴木 泰男、田部 裕子
三浦 新治、星 留男、山田 積次
渡部 静

【昭和45年卒(第22回)】
阿部 清功、石川 美智子、伊藤 美子
宇内 節子、小野 光寛、亀井 美津子
國分 公二、酒井 美代子、阪谷 サヨ子
佐藤 泰久、鈴木 盛久、谷川 清子
中山 誠一、長谷川 進、長谷川 誠二
日比谷 恵和子、本名 喜久造
武藤 勝文、目黒 博雄、矢島 マユミ
渡部 英雄

【昭和46年卒(第23回)】
木村 利男、宮田 とよ子、森 桂子
六角 秀行、渡部 浩司

【昭和48年卒(第25回)】
小林 謙二、鈴木 徹、穴戸 賢輔
芳賀 清喜、松本 新一、横田 裕一

【昭和49年卒(第26回)】
伊藤 秀一、塩原 雄司、吉田 玲子

【昭和50年卒(第27回)】
荒井 恵美子、五十嵐 健、遠藤 輝喜
大関 睦男、根本 文昭、森 珠子
谷吹 利男、渡部 佐吉

【昭和52年卒(第29回)】
内田 京子、越田 賢二

【昭和53年卒(第30回)】
穴沢 真理子、大堀 孝男、大町 富江
林 龍一、目黒 義朗

【昭和54年卒(第31回)】
五十嵐 仁、牧野 隆司

【昭和55年卒(第32回)】
鈴木 弘子

【昭和56年卒(第33回)】
小林 伸行、根本 美希、渡邊 伯子
渡邊 信郎

【昭和60年卒(第37回)】
一ノ瀬 正志

【昭和61年卒(第38回)】
齋藤 治男

【昭和63年卒(第40回)】
佐藤 健司、佐藤 英幸

【平成元年卒(第41回)】
齋藤 仁史

【平成4年卒(第44回)】
菅家 広之

【平成5年卒(第45回)】
栃木 和紀

【平成26年卒(第66回)】
伊藤 万由、森田 優也

【令和5年卒(第75回)】
阿部 陽、大類 宏樹


(合計 189名)

<令和5年度 寄付者ご芳名>(受付期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日)
当会発展のためにご寄付をいただきました。ありがとうございました。<敬称略>

- | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|
| 10,000円 | 6,000円 | 2,000円 |
| 齋藤 仁史(平成元年卒・第41回) | 根本 等(昭和40年卒・第17回) | 東崎 進(昭和27年卒・第4回) |
| 8,000円 | 室井 初男(昭和43年卒・第20回) | 佐藤 幸雄(昭和37年卒・第14回) |
| 雪下 正栄(昭和37年卒・第14回) | 3,000円 | 小林 謙二(昭和48年卒・第25回) |
| 田中 益代(昭和42年卒・第19回) | 遠藤 明男(昭和27年卒・第4回) | |
| 齋藤 治男(昭和61年卒・第38回) | 佐瀬 善彦(昭和28年卒・第5回) | |

ほんな きくぞう
本名 喜久造 若商高本部同窓会副会長、
 同東京支部 東京若商会会長
 (昭和45年・第22回卒業)
 大沼郡昭和村出身、さいたま市居住
 公益財団法人会津学生寮監事、一般社団法人緑内障フレンド・ネットワーク理事、さいたま市シニア大学 大宮・岩槻各校友会役員、居住地自治会防犯ボランティア他
 □趣味:名所旧跡・温泉巡り □自慢:市民ランナー・フルマラソン以上距離158回完走
 □好きな歌:「あなた」(小坂明子)
 □好きな言葉:「人事を尽くして天命に委ねる」

東崎 進
 (昭和27年卒・第4回)
 北会津村出身
 東京都目黒区在住
 福島県立若松商業高等学校
 同窓会東京支部東京若商会
 顧問

佐藤 順昭
 (昭和31年卒・第8回)
 南会津下郷町出身
 福島県立若松商業高等学校
 同窓会東京支部東京若商会
 学年幹事
 **ユンケル工芸株式会社代表**

上杉 敏男
 (昭和34年卒・第11回)
 会津若松市出身
 千葉県船橋市在住
 福島県立若松商業高等学校
 同窓会東京支部東京若商会
 学年幹事・行事
 会報に「ビバ! 映画音楽」掲載中

ELECTRONICS

株式会社 若松通商
 昭和39年(16回)卒 室井 軍三
<https://wakamatsu.co.jp/waka/>


成田 トミ子
 (昭和41年卒・第15回)
 猪苗代町出身
 東京都江東区在住
 福島県立若松商業高等学校
 同窓会東京支部東京若商会
 顧問

電子部品の専門店

株式会社 若松通商
 昭和41年(18回)卒 室井 広子
<https://wakamatsu.co.jp/waka/>

長谷川 のり子
 (昭和41年卒・第18回)
 会津若松市出身
 東京都中野区在住
 福島県立若松商業高等学校
 同窓会東京支部東京若商会
 学年幹事・行事・会計

同窓会東京支部(東京若商会)
 常任顧問 **山田 積次**
 (昭和44年卒・第21回)猪苗代町出身
 〒301-0042 茨城県龍ヶ崎市長山5-4-13
 電話:090-2211-0630
 Eメール:qqsx9929@air.ocn.ne.jp

 **みんなで盛りあげよう!**
愉快地に楽しくやりましょう!
 東京若商会 副会長
 旅行同好会世話人 **三浦 新治**
 第21回生(昭和44年卒) 千葉県船橋市在住
 城西小→若松四中卒 会津若松市出身
 ☎080-3423-1007
 E-Mail:miurah2604@jk9.so-net.ne.jp

池田 俊子 (昭和44年卒・第21回)
 北会津下野出身
 趣味:じっとしているのが苦手
 ・ランニング
 《コロナの為3年間大会に出ていません》
 ・太極拳《細々と仲間で練習会をしています》
 ・スキューバダイビング
 《水中写真でじっとしているのが大変》
 ・ソーイング・織物
 《最近ブラウスや帽子などいろいろ作れるようになりました》
 仕事柄教えるのが好きかもしれません。
 みんなで若商会を盛り上げましょう!!

同窓会東京支部(東京若商会)
副幹事長 小林 謙二
 (昭和48年卒業・第25回)会津若松市出身
 〒154-0011 東京都世田谷区上馬
 1-15-22~201号
 電話:090-2911-7393
 Eメール:aizu-k.kenji@ezweb.ne.jp

芳賀 清喜
 (昭和48年卒・第25回)
 南会津下郷町出身
 福島県立若松商業高等学校
 同窓会東京支部東京若商会
 副会長

《卒業生》優先入社歓迎します 計3名 (令和3年現在)
 同窓会東京支部 東京若商会
 (昭和49年卒業 スキー部)若松四中出身
愛和電気株式会社
 代表取締役 **伊藤 秀一**
 Eメール:ito@aiwa-elec.co.jp
 〒252-0815 神奈川県藤沢市石川2丁目26番21
 0466-86-6181

五十嵐 健
 (いがらし つよし)
 東京若商会幹事長
 (昭和50年卒業・第27回)
 会津美里町(会津高田町)出身
 (現)春日部地域型年金委員
 ○趣味 ゴルフ、健康ボウリング、温泉巡り、晩酌
 ○目標 1日8,000歩、早歩き20分、階段上り200段
 ○好きな言葉 仁義・誠実・思いやり・感謝

旅と酒をこよなく愛するひまわり
根本 文昭
 趣味: 旅、水泳、スキー、スキューバダイビング
 著書: 『運路オヤジの放浪びと日記』(兼政・中政・ハルト編へ166日間放浪記)
 福島県立若松商業高等学校同窓会東京支部
 東京若商会広報委員長(昭和50年卒・第27回)
 〒364-0033 埼玉県北本市本町3-139
 携帯:090-6655-6800
 E-mail:nemofumi3139@gmail.com


 タイ・アユタヤ運送

WATANABE LIESENBERG
 TAX ACCOUNTANTS' CORPORATION
 税理士 **渡部 佐吉**
 Sakichi Watanabe
 税理士法人 渡邊リーゼンバーグ
 本社 東京都港区新橋1-9-1 東京分館ビルディング17階 〒105-7317
 TEL 03-3569-3330 FAX 03-3569-3331
 支社 東京都大田区山王 2-19-12 〒143-0023
 TEL 03-3776-3000 FAX 03-3433-2201
 s-watanabe@watanabe-firm.or.jp http://www.watanabe-firm.com

令和5(2023)年度
会務活動実績

【2023年】

- 4月8日(土) 第1回役員会(総会準備)
- 第1回広報委員会 於「上野精養軒」参加者19名
- 4月8日(土) 会計監査 芳賀勇・芳賀清喜 両監事 於「高田馬場事務所」
- 4月19日(水) ゴルフ同好会コンペ(西武園ゴルフ場)参加者8名(2組)
- 4月20日(木) 同窓会本部役員会・支部長会議出席 於「ルネッサンス中の島」参加者 本名会長・室井顧問・室井広子幹事
- 4月23日(日) 2023年度総会案内状発送作業 於「岩槻会場」 応援者8名
- 5月13日(土) 第2回役員会(総会最終準備) ネット開催 参加者10名
- 5月27日(土) 同窓会本部総会出席 於「ルネッサンス中の島」参加者6名
- 6月3日(土) 総会直前準備作業 於「岩槻会場」 応援者8名
- 6月10日(土) 第94回東京若商会総会(兼懇親会) 於「上野精養軒」

10時30分～14時30分
参加者117名 会報発行700部
(前年実績400部+翌年総会案内同封300部)
6月20日(火) 「会報」寄稿者、会費納入者あて発送

7月15日(土) 第3回役員会「総会の反省会」 於「池田屋」 参加者22名

8月8日(火) 同窓会本部役員会・支部長会議出席 於「ルネッサンス中の島」参加者 本名会長・室井顧問・室井広子幹事

9月9日(土) 文化芸能鑑賞同好会 於新宿「末広亭」参加者12名

10月15日～16日 役員・旅行同好会合同秋季旅行会 中止

10月20日(金) 第2回広報委員会(会報第22号発刊計画)

11月18日(土) ネット三役会議(正副会長、正副幹事長、常任顧問) 参加者9名

12月2日(土) 第4回役員会・第3回広報委員会・忘年会 於「上野精養軒」参加者20名

【2024年】

2月10日(土)

第5回役員会・新年会 於御徒町「池田屋」参加者21名
3月31日(日) 名所旧跡巡り同好会(駒込巣鴨周辺) 参加者9名

令和6(2024)年度
会務活動計画(案)

【2024年】

4月13日(土) 会計監査 芳賀勇・根本等監事 於「上野精養軒」

4月13日(土) 第1回役員会(総会準備) 第1回広報委員会 於「上野精養軒」

4月17日(水) ゴルフ同好会コンペ 於「紫カントリーあやめコース」

4月18日(木) 同窓会本部役員会・支部長会議 於「ルネッサンス中の島」

4月27日(土) 総会案内状発送作業(応援者8名程度) 於「岩槻会場」

5月11日(土) 第2回役員会(総会最終準備) 於「ネット開催」

5月25日(土) 同窓会本部総会 於「ルネッサンス中の島」

6月1日(土) 総会直前準備作業(応援者8名程度) 於「岩槻会場」

6月8日(土) 第95回東京若商会総会 於「上野精養軒」時間：10時30分～14時30分 会報発行

6月18日(火) 「会報」寄稿者、会費納入者、寄付者あて発送

7月13日(土) 第3回役員会「総会の反省会」 場所：未定

8月6日(火) 同窓会本部役員会・支部長会議 於「ルネッサンス中の島」

9月7日(土) 文化芸能鑑賞同好会 寄席を樂しむ会 於「末広亭」

10月初旬～中旬 役員・旅行同好会合同秋季旅行会 信州長野方面

10月下旬 第2回広報委員会(会報第23号発刊計画)

11月16日(土) ネット三役会議(正副会長、正副幹事長、常任顧問) 参加者9名

12月7日(土) 第4回役員会・忘年会 第3回広報委員会 於「上野精養軒」

【2025年】

2月8日(土)

第5回役員会・新年会 場所：未定

3月下旬頃 名所旧跡巡り同好会

令和6年度役員(案)

会長	本名喜久造(昭和45年卒)
副会長	室井 初男(昭和43年卒)
〃	三浦 新治(昭和44年卒)
〃	池田 俊子(昭和44年卒)
〃	芳賀 清喜(昭和48年卒)
幹事長	五十嵐 健(昭和50年卒)
副幹事長	小林 謙二(昭和48年卒)
〃	渡邊 信郎(昭和56年卒)
監事	青山 典(昭和34年卒)
〃	根本 等(昭和40年卒)
会計	酒井美代子(昭和45年卒)
〃	吉田 玲子(昭和49年卒)
〃	渡部 佐吉(昭和50年卒)
学年幹事	18名
顧問	7名
相談役	1名

計 報

左記の方々の計報に接しました。謹んで「冥福をお祈りいたします。

- 故 土屋義信(昭和26年卒・第3回)
- 故 安部豊彦(昭和30年卒・第7回)
- 故 伊藤重記(昭和32年卒・第9回)
- 故 青木啓二(昭和35年卒・第12回)
- 故 水野嘉巳(昭和37年卒・第14回)
- 故 中山誠一(昭和45年卒・第22回)
- 故 大塚泰義(昭和49年卒・第26回)
- 故 小野保男(昭和54年卒・第31回)

***** 目 次 *****	
同窓会の輪を大きく広げよう！	歌日記「老々介護奮闘記」
会長 本名 喜久造…………… 1	弓田 博……………16
東京若商會會報第22号発行に寄せて	会津若松城と蒲生氏郷
本部長 佐瀬 正行…………… 2	鈴木 稔……………17
「東京若商會會報22号」発行に寄せて	会津藩の史跡を訪ねて 芳賀 勇……………18
吉成 広昭…………… 3	団子さし 室井 軍三……………19
【令和5年度総会・懇親会報告】	喜寿を迎えます 成田 トミ子……………19
4年ぶりの同窓会、大いに盛り上がる	認知症と成年後見制度の見直しについて
会長 本名 喜久造…………… 4	長谷川 哲雄……………19
初めて東京若商會に参加して	引越しと転職のはなし 三浦 新治……………20
大堀 孝男…………… 5	私の肩こり改善策 小林 謙二……………21
【幹事長レポートNo 5】	九州一周の旅 根本 文昭……………21
幹事長 五十嵐 健…………… 6	会津を想う 谷吹 利男……………22
【恩師からの便り】	【短信】……………23
同期会とQRコード 二瓶 哲…………… 7	【同期会報告】
人づくりの商業教育 中野 正人…………… 7	第7回同期会 中野 善次……………24
若商在職時代の思い出	第11回同期の会「三四会」
熊田 淳…………… 8	青山 典……………24
3回目の若松商業高校と幸せ	懐かしの伊香保へ 三浦 新治……………25
佐藤 充…………… 8	元気でまた会おう!! 本名喜久造……………25
【若商時代の思い出】	【同好会報告】
高校時代の夏休みの1日	ゴルフ同好会 佐藤英幸さん優勝！
猪俣 信儀…………… 9	国府 義次……………26
若商時代の思い出 山内 佐内…………… 9	名所旧跡巡り同好会 約10kmの名所・旧跡巡り
60年前の尾瀬紀行 坂井 徹夫……………10	上杉 敏男……………26
遠藤義行先生について	旅行同好会『ご一緒しませんか』
木村 正廣……………11	三浦 新治……………27
断捨離と修学旅行の思い出写真	文化芸能観賞同好会 みんなで寄席を楽しもう
山田 積次……………11	五十嵐 健……………27
【ふるさと“新発見”& ふるさと自慢】	東京若商會ホームページ紹介……………28
鶴ヶ城公園のサクラ 鈴木 公毅……………12	令和5年度東京若商會一般会計決算報告……………28
大内宿の名物・名所 中野 善次……………12	令和6年度東京若商會一般会計予算（案）……………28
節分豆まきの掛け声 松川 源郎……………13	令和5年度会費納入者ご芳名／寄付者ご芳名……………29
【みんなの広場】	名刺広告……………30
境木地蔵尊鎮座の地 酒井 繁……………14	令和5年度会務活動実績／令和6年度会務活動計画（案）……………31
奥会津の曲家に泊 杉原 光男……………14	令和6年度役員（案）……………31
鬼平犯科帳の舞台を歩く	計報……………31
青山 典……………15	目次……………32
ビバ！映画音楽12 上杉 敏男……………16	編集後記……………32

編集後記

昨年度はコロナ禍の制限や自粛が解かれ、総会・懇親会を初め、各種同好会や同期会などが実施できました。それらの報告も含めて、会員同士の交流を深め、絆を強める場となればとの思いを込めて「会報第 22号」をお届けいたします。

今号は恩師二瓶哲先生、中野正人先生、熊田淳先生、佐藤充先生の4名から玉稿をお寄せいただきました。教え子への深い愛情と商業教育に寄せる熱い思いを窺い知ることができました。また、初めて総会に参加された会員からの感想も寄せられました。さらに、今号に初めて「短信」欄を設けました。総会や懇親会に様々な理由から参加できない会員の近況を掲載することにより、旧交を温めるきっかけになればと思います。設定しました。次号以降も継続したいと考えています。総会・懇親会に参加できないが、近況を旧友に知らせたいとお考えの方は、総会出欠葉書の「自由通信欄」に「記入ください。会報に掲載させていただきます。今号もほぼ例年通りの紙数での会報の編集ができました。寄稿くださいました本部長・校長・恩師・会員の皆様には感謝いたします。今後とも会報の一層の充実に努めてまいりたいと思っております。是非、掲載内容や特集などのご要望やご意見等がございましたらお知らせください。

末筆となりましたが、会員の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

広報委員長 根本 文昭 (昭和 年卒)
《広報委員》 山田 積次 (昭和 年卒)
小林 謙二 (昭和 年卒)
芳賀 清喜 (昭和 年卒)
渡邊 信郎 (昭和 年卒)